

第6章 高等学校教育

第1節 概要

今年度は、高等学校において、主体的・対話的で深い学びの視点も取り入れて生徒の学力向上を図り、将来への展望を抱かせるとともに、地域に貢献できる人材や社会においてリーダーシップを発揮できる人材を育成し、教員研修及び生徒指導等に取り組んだ。

(1) 「ふくしまを創る若者のプラットフォーム構築事業」

ア 地域ネットワーク推進委員の配置

県北地区の伊達高等学校、県南地区の白河旭高等学校、会津地区の喜多方高等学校、いわき地区の磐城桜が丘高校を拠点校に指定し、地域コーディネーターを1人ずつ配置した上で、県中地区の郡山東高校、南会津地区の南会津高校、相双地区の相馬総合高校を訪問校に指定して、学校と地域の協働を推進するとともに、「人材ネットワークバンク」を作成した。

イ 「若手人材」・「地域人材」を活用した地域課題探究活動を支援する取組

「若手人材」・「地域人材」を活用した地域課題探究活動を推進するために、県立高校に予算配分等の支援を実施した。
対象校 全県立高校

ウ 社会貢献活動コンテストの開催

復興に貢献する人材育成を目的に開催。県内の高校生が地域課題の解決に向けた取組について発表した。

エ 教員研修会の開催

地域課題探究活動を充実させ、生徒自らが正解のない問いに対して主体的に取り組む姿勢を確立するために、探究活動のプログラム作成について各校代表の教員に対して研修及び情報交換の機会を設けた。

(2) 「ふくしま高校生学びの変革支援事業」

ア 未来を担う高校生の資質・能力育成事業

○ 対象 県立高等学校1・2年生

○ 実施内容

(ア) 1年生対象：予備校講師等による難関大合格に向けた学習セミナー（国語・数学・英語）と県内出身の大学生と高校生のパネルディスカッションを実施した。

(イ) 2年生対象：予備校講師等による難関大合格に向けた学習セミナー（数学・英語）および知事を講師とした県総合計画に関する特別授業を実施した。

イ 進路実現のための資質・能力育成事業

○ 対象校 21校

○ 各校の取組内容

- ・思考力・判断力・表現力等の養成講座
- ・教員による、難関大学等の入学試験問題の研究と発展的内容に係る指導
- ・生徒の実態に応じた各校独自作成による校内模擬試験等の実施
- ・社会人としての在り方についての理解を深める講話
- ・大学教授等による最先端研究や理論に関する講義や演習
- ・大学等と連携した最先端研究実習体験や課題研究指導（選択）
- ・卒業生（大学生等）による講話
- ・保護者を交えた進学勉強会
- ・進路便りや年間進路指導計画表の作成・配布

○ 研究会等の開催

- ・学力向上のための教科指導力向上研究会
主体的・対話的で深い学びの視点から生徒の主体性を生かす授業改善を進めるための研究
- ・学力向上連絡協議会
主体的・対話的で深い学びの視点から生徒の主体性を生かす授業改善を進めるための協議

ウ 科学の甲子園福島県大会

生徒の理数に関する興味・関心を高めるとともに、意欲ある生徒の再生可能エネルギーの研究開発や放射線医学などを担う能力の育成を図ることを目的に開催。科学技術・理科・数学等における複数分野の知識・技能を競い合った。

(3) 教職員現職教育計画に基づいて、各種研修会や講習会を開催し、教職員の職責にふさわしい資質・能力の向上に努めるとと

もに、社会の変化や時代の進展に対応した実践的指導力を習得させるため、各種の研修等を実施した。

(4) 多様化した生徒の心の問題の解決のために、ピュアハートサポートプロジェクトとしてカウンセリング等の各種研修会を開催し、教員の資質向上に努めた。さらに、教育相談専門研修及び関係機関との連携強化のために各種連絡協議会を開催し、教員の実践的指導力の向上を図った。

(5) 「震災と復興を未来へつむぐ高校生語り部事業」

ア 震災関連学習・語り部活動の人材育成

指定された各県立高校が、生徒に対して、伝承館等での研修や、各校で行う外部講師による震災関連授業等を実施し、語り部の人材育成につなげた。学習の成果は、各学校の創意工夫により、多様な方法で発信した。

なお、実践的な取組を行う「実践校」には、17校を指定した。

イ 県内の学校間での交流

語り部人材育成を強化する取組として、実践校の代表生徒による交流の場を設け、学習成果の情報共有を行った。

ウ 県外・海外の学校等との交流

実践校の生徒が県外・海外の高校生等と交流を行い、語り部活動を行った。

エ 震災学習のためのリーフレット（小冊子）の作成・配布

震災学習の成果をまとめたリーフレットを学校が作成し、交流活動の中で配布し、活用した。

オ 伝承館を利用した教員研修

県立高校の教員及び公立小中学校の教員が、震災当時の状況やその後の復興の歩み等を理解し、今後の本県の在り方や本県の教育について考えを深めた。

第2節 学校管理

1 生徒数と教職員数

(1) 県立高等学校の推移

区分		年度										
		26	27	28	29	30	元	2	3	4	5	
全日制	本校	83	84	84	79	79	79	79	77	73	68	
	分校	5	5	5	3	2	2	0	0	0	0	
定時制	独立	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	
	併置	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	
	計	7	7	7	7	7	7	7	7	7	6	
	分校	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

(注)募集基準として学校数を算定(課程の変更、募集停止を実施した場合、2年以上の生徒が在籍しても学校数に含めない)。

(2) 中学校卒業者の進学状況

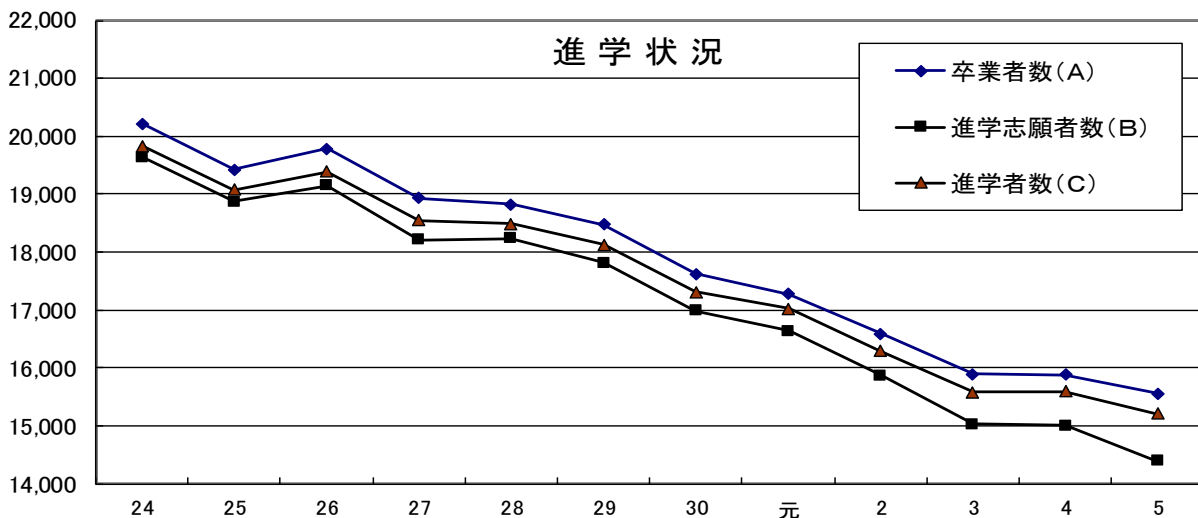
区分	年度											
	24	25	26	27	28	29	30	元	2	3	4	5
卒業生(A)	20,220	19,427	19,782	18,929	18,824	18,482	17,622	17,276	16,594	15,899	15,884	15,556
進学希望者数(B)	19,659	18,873	19,150	18,215	18,232	17,817	16,990	16,638	15,872	15,029	15,004	14,393
進学者数(C)	19,835	19,072	19,388	18,548	18,487	18,130	17,314	17,019	16,295	15,583	15,597	15,212
進学志願率(B/A)	97.2%	97.1%	96.8%	96.2%	96.9%	96.4%	96.4%	96.3%	95.6%	94.5%	94.5%	92.5%
進学率(C/A)	98.1%	98.2%	98.0%	98.0%	98.2%	98.1%	98.3%	98.5%	98.2%	98.0%	98.2%	97.8%
入学率(C/B)	100.9%	101.1%	101.2%	101.8%	101.4%	101.8%	101.9%	102.3%	102.7%	103.7%	104.0%	105.7%

(注)進学とは中学校卒業者のうち県内外を問わず、高校の全日制、定時制、通信制、別科、高専及び特別支援学校高等部へ進学したことをいう(就職者を含む)。進学志願者数には高校の通信制課程志願者は含まれない。

中学校卒業生数は前年度より 328 名減少し、進学率は前年度より 0.4 ポイント下降、入学率は 1.7 ポイント上昇した。
令和 5 年度の進学者の内訳は次のとおりである。

高等学校全日制	13,794 名 (90.7%)
高等学校定時制	231 名 (1.5%)
高等学校通信制	783 名 (5.1%)
高等学校別科	0 名 (0.0%)
高等専門学校	222 名 (1.5%)
特別支援学校高等部	182 名 (1.2%)

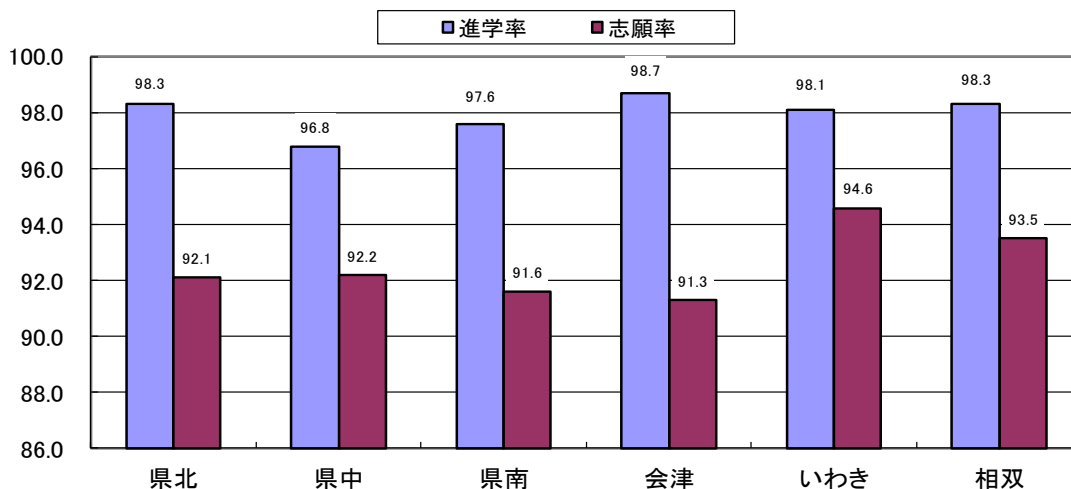
ア 中学校卒業生の進学状況の推移、進学率の推移



○高校進学率 (%)

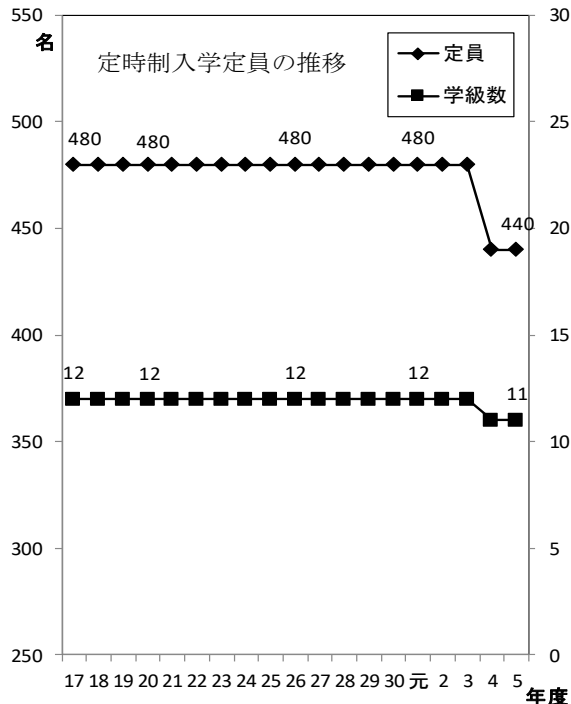
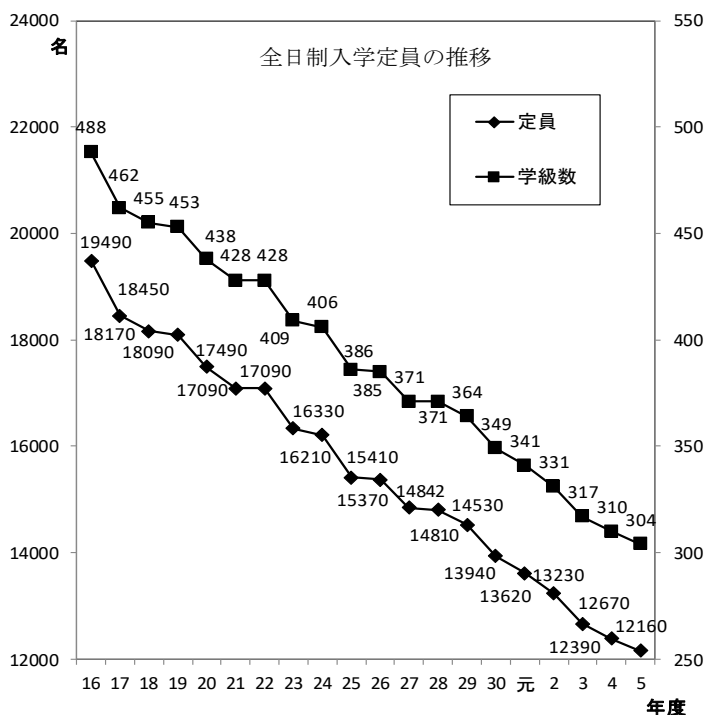
年度	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	元	2	3	4	5	
全国	97.5	97.6	97.7	97.7	97.8	97.9	98.0	98.2	98.3	98.4	98.4	98.5	98.7	98.8	98.8	98.8	98.8	98.8	98.8	98.8	98.7
本県	97.5	97.4	97.8	97.7	97.9	98.0	98.2	98.0	98.1	98.2	98.0	98.0	98.2	98.1	98.3	98.5	98.2	98.0	98.2	98.2	97.8

イ 地域別高校志願率・進学率



(3) 県立高等学校入学定員の推移

ア 全日制入学定員並びに定時制入学定員の推移



イ 学級編成基準

学科の区分	全日制	定時制	学科の区分	全日制	定時制
普通科	35, 40	40	国際文化に関する学科	40	-
農業に関する学科	40	-	英語に関する学科	40	-
工業に関する学科	40	40	体育に関する学科	40	-
商業に関する学科	40	-	美術に関する学科	40	-
家庭に関する学科	40	-	国際科学に関する学科	40	-
水産に関する学科	40	-	総合学科	40	-
理数に関する学科	40	-	国際・スポーツに関する学科	40	-
文理に関する学科	40	-			

(4) 県立高等学校全日制課程入学状況の推移

年度	中学校卒業生数	入学定員		志願者数		志願倍率	入学者数	
	A	B定員	B/A (%)	C志願者数	C/A (%)	C/B (%)	D入学者数	D/C (%)
26	19,782	15,370	77.7	16,589	83.9	108	14,421	86.9
27	18,929	14,842	78.4	15,716	83.0	106	13,961	88.8
28	18,824	14,810	78.7	15,598	82.9	105	13,945	89.4
29	18,482	14,530	78.6	15,213	82.3	105	13,478	88.6
30	17,622	13,940	79.1	14,439	81.9	104	12,839	88.9
元	17,276	13,620	78.8	13,855	80.2	102	12,426	89.7
2	16,594	13,230	79.7	12,986	78.3	98.2	11,771	90.6
3	15,899	12,670	79.7	12,248	77.0	96.7	11,008	89.9
4	15,884	12,390	78.0	12,138	76.4	98.0	10,762	88.7
5	15,556	12,160	78.2	11,842	76.1	97.4	10,671	90.1

(5) 県立高等学校生徒数（令和５.５.１現在）

学科の区分		課程	全日制	定時制			専攻科	合計	通信制
				学年制	単位制	計			
普通科	男		7,549	64	237	301		7,850	453
	女		8,228	42	259	301		8,529	500
	計		15,777	106	496	602		16,379	953
農業に関する学科	男		1,149					1,149	
	女		1,206					1,206	
	計		2,355					2,355	
工業に関する学科	男		4,149	21		21		4,170	
	女		386	3		3		389	
	計		4,535	24		24		4,559	
商業に関する学科	男		1,312					1,312	
	女		2,069					2,069	
	計		3,381					3,381	
家庭に関する学科	男		16					16	
	女		57					57	
	計		73					73	
水産に関する学科	男		267				44	311	
	女		57				2	59	
	計		324				46	370	
理数に関する学科	男		161					161	
	女		157					157	
	計		318					318	
文理に関する学科	男		335					335	
	女		529					529	
	計		864					864	
国際文化に関する学科	男		25					25	
	女		93					93	
	計		118					118	
国際・スポーツに関する学科	男		0					0	
	女		0					0	
	計		0					0	
国際科学に関する学科	男		86					86	
	女		392					392	
	計		478					478	
英語に関する学科	男		37					37	
	女		77					77	
	計		114					114	
体育に関する学科	男		96					96	
	女		13					13	
	計		109					109	
美術に関する学科	男		14					14	
	女		90					90	
	計		104					104	
総合学科	男		1,295					1,295	
	女		1,925					1,925	
	計		3,220					3,220	
合計	男		16,491	85	237	322	44	16,857	453
	女		15,279	45	259	304	2	15,585	500
	計		31,770	130	496	626	46	32,442	953

(6) 県立高等学校通信制課程入学者、卒業者の推移

区分	学校	年度											
		24	25	26	27	28	29	30	元	2	3	4	5
入学者	郡山萌世高校	197	152	133	124	99	87	71	86	84	71	106	107
	計	197	152	133	124	99	87	71	86	84	71	106	107

区分	学校	年度											
		23	24	25	26	27	28	29	30	元	2	3	4
卒業者	郡山萌世高校	223	231	192	155	158	122	121	120	110	112	109	133
	計	223	231	192	155	158	122	121	120	110	112	109	133

(7) 県立高等学校教職員定数の推移

区分	種別	高 等 学 校																				
		課程	全日制・定時制										通信制									
	職種		年度	26	27	28	29	30	元	2	3	4	5	26	27	28	29	30	元	2	3	4
教員	校長		85	86	86	81	81	81	81	79	75	70										
	教諭等		3312	3223	3218	3167	3116	3047	2987	2928	2893	2861	36	36	36	34	33	28	25	25	25	25
	養護教員		106	106	105	102	100	98	96	91	86	81										
	補充教員		153	153	145	137	131	127	124	120	124	123										
	充指導主事		23	23	23	23	23	22	22	22	23	23										
	寄宿舎指導員		3	5	6	7	8	10	10	10	10	10										
	実習助手		326	323	322	320	314	314	308	301	292	283										
	計		4008	3919	3905	3837	3773	3699	3628	3551	3503	3451	36	36	36	34	33	28	25	25	25	25
	事務職員		249	245	247	240	232	228	223	217	213	207	6	6	6	6	6	6	4	4	4	4
その他の職員	技能員																					
	学校司書		53	53	53	53	52	52	52	51	52	53										
	用務員		48	45	41	40	39	42	32	29	23	20										
	ボイラー技師		10	7	6	6	5	6	3	1	2	2										
	栄養士		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4										
	調理給食員		3	3	3	3	3	3	1	1	1	1										
	計		118	112	107	106	103	107	92	86	82	80										
練習船	技能職員		9	9	9	9	9	9	9	9	9											
	その他の職員		13	13	13	13	13	13	13	13	13											
	計		22	22	22	22	22	22	22	22	22											
	合計		4397	4298	4281	4205	4130	4056	3965	3876	3820	3760	42	42	42	40	39	34	29	29	29	29

2 教職員人事・任用

(1) 人事異動の概要

令和5年度の高等学校教職員定数（補充教員は含まない）は、前年度比59人減の3,666人となった。このうち、教諭等は、前年度比32人減の2,886人である。

また、特別支援学校については、前年度比33人増の1,724人となった。このうち教諭等は前年度比32人増の1,473人となった。

ア 新採用（教諭）について

令和5年度は48名（国語3名・地歴公民7名・数学2名・理科3名・保健体育2名・音楽1名・美術1名・英語3名・家庭2名・情報2名・農業5名・工業7名・商業4名・水産1名・福祉1名・特別選考Ⅲスポーツ1名・特別選考Ⅳ情報3名）の新採用教員を県立高等学校に配置した。

令和5年度に実施した令和6年度福島県公立学校教員採用候補者選考試験は、採用予定者数45名程度に対して、高等学校志願者は前年比42人減の432名であった。

一次及び二次選考試験の結果、名簿掲載者数は49名（前年度比1名増）となり、新採用教員として配置されることになる。

イ 校長への昇任

県立学校の校長への昇任は、その職責の重要性にかんがみ、資格・人物・指導力等を十分考慮のうえ、教頭から3名、教育庁関係から現場復帰による11名の登用をみた。これらの管理職は、できる限り自分の専門性をいかせるよう適材を適所に配置し、適正な学校管理運営をするよう努めた。

ウ 異動について

本年度も昨年度同様の方針にのっとり、同一校永年勤務者、採用後引き続き同一校に3年以上勤務する者等を含めて546名の教諭等の異動が実現した。

経験豊かな教員の転出が促進されたこととともに、定時制・通信制・及び特別支援学校と全日制高校との交流が進んだことは、教育組織の強化充実に資するところであり、全県的に教育水準及び教育効果の向上に役立つものと期待される。

(2) 令和5年度県立学校教員異動基準

I 一般基準

- (ア) 過員解消のための異動は、全県的視野から優先的に取り扱う。
- (イ) 教育課程の適正な運営を期するため、教員組織の均衡化を図り主免許教科を担当させるように努める。
- (ウ) 優秀な人材の定時制（夜間）・通信制・分校及びへき地校への転入を図るとともに、その者が相当年数（3年以上）勤務した場合の転出については、特に考慮する。
- (エ) 同一校には、原則として、最低3年は勤務するものとする。
- (オ) 2親等以内の者（姻族を含む。）は、原則として、同一校勤務を避ける。

(カ) 教員人事公募選考制度については、別に定める。

II 異動基準

ア 勤続年数による基準

次に該当する者は、異動の対象とする。

- (ア) 採用後引き続き同一校に3年以上勤務した者（以下「初任者」という。）
- (イ) 異動2校目において3年以上勤務した者（以下「若年者」という。）

ただし、(ア)、(イ)いずれの場合も、原則として3年以上5年以内で異動させるものとする。

（「若年者」については平成21年度以降の採用者から適用する。）

ウ 同一校に8年以上勤務した者

（以下「永年者」という。）

ただし、中通り地域の4校（湖南・埴工業・修明・修明鮫川）、会津地域の4校（川口・田島・南会津・只見）及び浜通り地域の2校（浪江津島・相馬農業飯館）に3年以上勤務した場合は、永年とみなすことができる。

イ 地域、地区及び学校群による基準

教員の適材適所への配置及び教員組織の均衡化を図るため、県内を中通り、会津、浜通りの3地域に分け、各地域に所在する学校を学校規模及び交通の利便性等を考慮して、別表①に定めるⅠ・Ⅱ群に分類し、以下により異動を促進する。

(ア) 原則として、採用後20年以内に3地域の学校に勤務するものとする。

(イ) 農業、工業、商業、看護、福祉等を除く教科の教員については、Ⅱ群の学校に勤務している者が同一地区内で異動するときは、原則としてⅠ群の学校に勤務するものとする。

ただし、Ⅱ群普通系からⅡ群専門系への異動、Ⅱ群専門系勤務者のうち直近の勤務がⅠ群校の者のⅡ群普通系への異動は可とする。

なお、相双地区においてはⅡ群普通系内の異動も可とする。

(ウ) 農業、工業、商業、看護、福祉等の教科の教員については、全県的視野から地域間で相互に異動させるものとする。

ウ 平成20年度以前の採用者について

平成30年度までは次の基準（以下「旧基準」という。）を準用し、下記の(イ) a を満たす者は、上記イ(ア)の規定を満たすものとする。

(ア) 勤続年数による基準

次に該当する者は、異動の対象とする。

- a 初任者
- b 永年者

(イ) 地区及び学校群による基準

教員組織の均衡化を図るため、県内を県北・県南・会津・いわき・相双の5地区に分け、地区ごとに所在する学校の地理的特殊性等を考慮して、別表②に定める

A・B・C 3群に分類し、以下により異動を促進する。

- a 原則として次の条件を満たすよう勤務するものとする。
 - (a) 採用後 15 年以内に 2 地区以上の学校に勤務する。
 - (b) A・B 2 群の学校に勤務する。ただし、A 群については、採用後 15 年以内とする。
- b 県南地区の 4 校（湖南・埴工業・修明・修明鮫川）、会津地区の 4 校（川口・田島・南会津・只見）及び相双地区の 3 校（浪江津島・富岡川内・相馬農業飯館）は、それぞれ 1 地区とみなす。
- c 本宮は平成 16 年度より県北地区とし、平成 16 年度以降の転入・在籍者から適用する。
- d 群の取扱いの変更は、別表③の適用年度以降に当該校へ転入・在籍した者について適用する。
- e 同一学校群内の異動については、次の諸点に留意する。
 - (a) A 群については、原則として、へき地校間、分校間の異動は行わない。
 - (b) B 群については、原則として、同一市内間の異動は行わない。ただし、いわき市及び南相馬市は除く。
 - (c) C 群については同一市内間の異動は行わない。
- f 職業に関する学科の教員で、永年者については、全県的視野から地区間で相互に異動することができるものとする。

また、異動後同一校に 3 年以上勤務した場合は、直近の勤務地区内へ異動することができる。

エ 寄宿舎指導員

原則として 2 に準ずるが、採用後 20 年以内に 2 地域の学校に勤務するものとする。

オ 交流

(ア) 学校種別間の交流

高等学校、特別支援学校及び中学校における教育を充実させるため、県立特別支援学校、市町村公立中学校との交流を促進する。

- a 県立特別支援学校との交流は教諭、養護教諭、実習助手、寄宿舎指導員を対象とする。
 - その期間は、教諭及び実習助手については原則として 3 年とし、養護教諭及び寄宿舎指導員については原則として 3 年から 8 年とする。
- b 市町村公立中学校との交流は教諭を対象とし、その期間は原則として 2 年とする。

(イ) 他県との交流

他県との交流については、別に定める。

別表① 地域・地区・群学校分類表

群		I	II	
地域・地区				
中通り	県北	福島明成 福島工業（定） 福島北 福島南 川俣 伊達 安達 二本松実業 本宮 ふくしま新世	普通系	福島 橘 福島西 福島東
			専門系	福島商業 福島工業
	県中	湖南 須賀川創英館 須賀川桐陽 清陵情報 岩瀬農業 石川 田村 船引 小野 郡山萌世	普通系	安積 安積黎明 郡山東 郡山 あさか開成
			専門系	郡山商業 郡山北工業
	県南	光南 修明 白河二	普通系	白河 白河旭
			専門系	白河実業
会津	喜多方 喜多方桐桜 猪苗代 西会津 会津西陵 川口 会津農林 南会津 只見 会津二	普通系	会津 葵 会津学鳳	
		専門系	若松商業 会津工業	
浜通り	いわき	いわき総合 いわき光洋 いわき湯本 小名浜海星 磐城農業 勿来 勿来工業 好間 四倉 いわき翠の杜	普通系	磐城 磐城桜が丘
			専門系	平工業 平商業
	相双	<u>浪江 浪江（津島）</u> <u>富岡 双葉翔陽</u> ふたば未来学園 相馬農業 <u>相馬農業（飯館）</u> 小高産業技術	普通系	<u>双葉</u> 相馬 原町
			専門系	相馬総合 中学校

~~~~~は、平成 29 年 4 月 1 日から休校になった学校。  
 \_\_\_\_\_は、令和 2 年 4 月 1 日から休校になった学校。



別表② 地区・群別学校分類表

| 群<br>地区 | A                               | B                                             | C                                                  | 特別支援学校<br>(A群校扱い)                                     |
|---------|---------------------------------|-----------------------------------------------|----------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|
| 県北      | 福島工業(定) 川俣<br>ふくしま新世            | 福島商業 福島明成<br>福島北 伊達 安達<br>二本松実業 本宮            | 福島 橘 福島工業<br>福島西 福島東<br>福島南                        | 視覚支援<br>聴覚支援(福島)<br>大笹生支援<br>だて支援<br>須賀川支援(医大)        |
| 県南      | 石川 船引 小野<br>郡山萌世 白河第二           | 須賀川創英館<br>須賀川桐陽<br>清陵情報 岩瀬農業<br>光南 白河実業<br>田村 | 安積 安積黎明<br>郡山東 郡山商業<br>郡山北工業 郡山<br>あさか開成<br>白河 白河旭 | 聴覚支援<br>郡山支援<br>あぶくま支援<br>須賀川支援<br>須賀川支援(郡山)<br>たむら支援 |
|         | 湖南 修明                           |                                               |                                                    | 西郷支援<br>石川支援<br>石川支援(たまかわ)                            |
| 会津      | 猪苗代 西会津<br>会津第二                 | 喜多方 喜多方桐桜<br>会津西陵 会津農林                        | 会津 葵<br>会津学鳳<br>若松商業<br>会津工業                       | 聴覚支援(会津)<br>会津支援<br>会津支援(竹田)<br>猪苗代支援                 |
|         | 川口 南会津<br>只見                    |                                               |                                                    |                                                       |
|         | 会津学鳳中学校                         |                                               |                                                    |                                                       |
| いわき     | 小名浜海星 磐城農業<br>勿来 勿来工業<br>いわき翠の杜 | いわき総合<br>いわき光洋<br>いわき湯本<br>好間 四倉              | 磐城 磐城桜が丘<br>平工業 平商業                                | 聴覚支援(平)<br>平支援<br>いわき支援<br>いわき支援(くぼた)                 |
| 相双      | 双葉翔陽                            | 双葉 浪江 富岡<br>相馬農業<br>小高産業技術                    | 相馬 相馬総合<br>原町                                      | 富岡支援<br>相馬支援                                          |
|         | 浪江(津島)<br>相馬農業(飯館)              |                                               |                                                    |                                                       |

~~~~は、平成29年4月1日から休校になった学校。

====は、令和2年4月1日から休校になった学校。

別表③

| 高校名 | 群 | 適用年度 | 高校名 | 群 | 適用年度 | 高校名 | 群 | 適用年度 |
|-------|---|------|-------|---|------|-------|---|------|
| 小野 | A | 昭和52 | 白河実業 | B | 昭和61 | 棚倉 | A | 平成10 |
| 福島明成 | B | 昭和56 | 川俣 | A | 平成2 | 東白川農商 | A | 〃 |
| 福島北 | B | 〃 | 福島商業 | B | 〃 | あさか開成 | C | 平成11 |
| いわき海星 | A | 〃 | 梁川 | A | 平成8 | 光南 | B | 〃 |
| 磐城農業 | A | 〃 | 船引 | A | 〃 | 石川 | A | 〃 |
| 勿来工業 | A | 〃 | いわき光洋 | C | 〃 | いわき光洋 | B | 平成16 |
| 双葉翔陽 | A | 〃 | 勿来 | A | 〃 | | | |
| 猪苗代 | A | 昭和58 | 相馬農業 | B | 〃 | | | |

(3) 教頭複数制実施校(令和5年度実績)

| | | | |
|---------|-------|--------|-------|
| 福島 | 橘 | 福島商業 | 福島明成 |
| 福島工業 | 福島西 | 福島東 | 伊達 |
| 二本松実業 | 安積 | 安積黎明 | 郡山東 |
| 郡山北工 | 郡山 | 須賀川創英館 | 清陵情報 |
| 岩瀬農業 | 光南 | 白河 | 白河実業 |
| 修明 | 田村 | 会津 | 会津学鳳 |
| 喜多方 | 会津西陵 | 磐城 | 磐城桜が丘 |
| 平工業 | いわき総合 | いわき湯本 | 小名浜海星 |
| ふたば未来学園 | 相馬総合 | 小高産業技術 | 郡山萌世 |
| ふくしま新世 | 視覚支援 | 聴覚支援 | 大笹生支援 |
| だて支援 | 郡山支援 | あぶくま支援 | 須賀川支援 |
| 西郷支援 | 石川支援 | たむら支援 | 会津支援 |
| 平支援 | いわき支援 | 富岡支援 | |

(7) 校名変更

なし

(8) 連携型中高一貫教育校

| 課程 | 学校名 | 連携中学校 |
|------|---------|--------------------|
| 全日制 | 白河実業 | 埴 |
| | 修明 | 棚倉、埴、矢祭、鮫川 |
| | 南会津 | 田島、荒海、舘岩、南会津、下郷 |
| | ふたば未来学園 | なみえ創成、葛尾、双葉 |
| 相馬総合 | | 学び舎ゆめの森、富岡 |
| | | 川内小中学園、檜葉、広野 |
| | | 中村第一、中村第二、向陽、磯部、尚英 |

(9) 併設型中高一貫教育校

会津学鳳高等学校(会津学鳳中学校)

ふたば未来学園高等学校(ふたば未来学園中学校)

(10) 通信制

変更なし

(11) 専攻科

変更なし

3 学校の設置及び統廃合

- 公立高等学校の設置・廃止等(令和6年度) -

(1) 学校の新設・廃止等

ア 統合に伴う学校廃止

なし

イ 統合に伴う学校新設

なし

ウ ふたば未来学園高等学校開校に伴い、避難区域にある

高等学校の生徒募集休止による休校 全日制5校

双葉高等学校、浪江高等学校、浪江高等学校津島校、

富岡高等学校、双葉翔陽高等学校

(2) 学級増

なし

(3) 学級減

全日制6校6学級

| 課程 | 学校名 | 内 容 |
|-----|-----|--------|
| 全日制 | 伊達 | 普通科1学級 |
| | 本宮 | 普通科1学級 |
| | 石川 | 普通科1学級 |
| | 船引 | 普通科1学級 |
| | 喜多方 | 普通科1学級 |
| | 勿来 | 普通科1学級 |

(4) 募集停止

なし

(5) 学科転換・学科改編・学科新設

(学科改編)

小高産業技術 流通ビジネス科 1学級

産業革新科(ICTコース、経済・金融コース) 1学級

計2学級

→ 産業革新科(ビジネス・ITコース) 1学級 計1学級

(6) 学科名変更

修明 文理科 1学級 → 文理探究科 1学級

第3節 学校教育

1 概要

(1) 指導行政の基本方針

生徒の能力・適性、進路・関心等を十分考慮し、地域や学校の実態に応じた教育指導の充実を図りながら、人間性豊かな生徒の育成を目指して、学校教育活動が活発に展開されるよう次の重点目標を設定し、その達成に努めた。

ア 生徒の実態等を踏まえ、各学校が主体性をもって、多様な教育課程を編成し、特色ある学校づくりができるよう指導・援助する。

イ 指導内容の精選と構造化に努め、言語活動の充実と生徒のよい点を積極的に評価するなどの評価の改善を進めることにより、生徒一人一人の個性を生かす指導方法の工夫・改善が図られるよう指導・援助する。

ウ 生徒指導の組織・体制を点検するとともに、教職員の共通理解を基盤として、中学校や家庭との連携を深めながら、生徒理解に基づいた指導が展開されるよう、指導・援助する。

エ 生徒の学校生活への適応を促し、中途退学者の減少及び問題行動・生徒事故の未然防止が図られるよう指導・援助する。

オ 教職員の資質と指導力の向上に努める。

カ 勤労観・職業観の育成にかかわる体験的な学習及び産業教育、情報教育の推進を図る。

(2) 指導組織

高校教育課長を中心に、主幹、主任指導主事及び指導主事が一体となって、それぞれの分掌に従い、企画・運営・指導助言に当たった。

また、学校教育指導委員の指名については、県立高校教諭及び養護教諭 21 名を指名し、各教科等の指導活動の充実・強化を図った。

(3) 学校教育指導の重点

前記の基本方針に基づき、指導の重点を次のように設定し、指導の充実を図った。

ア 教育課程の適切な運営と指導法の改善を図る。

(ア) 教育課程の適正な実施について、校長会、教頭会において周知徹底を図った。

(イ) 福島県高等学校教育課程講習会において、高等学校学習指導要領の趣旨の徹底を図るため、参加者に対して講義及び協議を実施し、教育課程実施に伴う諸問題について理解を深めた。

イ 学力向上を図る。

「ふくしま高校生学びの変革支援事業」として、生徒の進路希望実現を目指した各学校の学力向上やキャリア教育に関する取組の支援、授業改善や進学指導力向上のための研究会などを実施した。また、将来社会においてリーダーシップを発揮できる人材の育成を目指し、難関大学進学への意識、意欲の高い生徒を対象とした学習セミナーを実施した。さらに、対象校の進路指導担当者を出席者とする

情報交換会を実施した。

ウ 生徒指導の充実を図る。

(ア) 各種研修会、学校訪問等の指導を通して、校内における指導体制の確立を図るとともに、教職員の共通理解を図り、同一歩調による生徒指導の充実に努めた。

(イ) 生徒指導担当者研修会を開催し、生徒の多様化に即した生徒指導の在り方、開かれた生徒指導の在り方について研究協議を行った。

(ウ) 学校における教育相談体制の確立と教育相談活動の改善・充実を図った。

(エ) スクールカウンセラー活用事業として、生徒の臨床心理に関して高度に専門的な知識・経験を有するスクールカウンセラーを配置し、いじめや不登校等生徒の問題行動の解決に当たった。

エ 進路指導の充実を図る。

各種の研修会や講座を通して、下記事項の徹底に努めた。

(ア) キャリア教育の観点より低学年からの計画的・組織的な進路指導を通し進路意識の高揚に努めること。

(イ) ホームルーム活動における進路指導の充実に努めること。

(ウ) 面談や諸調査・諸検査を通して、生徒の能力・適性・進路の希望等を的確に把握すること。

(エ) 生徒の自己理解の促進に努めること。

(オ) 進路指導室の整備及び進路に関する情報や資料の収集に努めるとともに、その効果的な活用を図ること。

(カ) 組織的・計画的な進路相談の充実に努めること。

(キ) きめ細かな就職指導の充実・徹底に努めること。

オ 産業教育の充実を図る。

産業教育の改善・充実を図るため、施設・設備の充実及び情報教育の推進に努めた。

(ア) 体験入学の内容の質的改善・充実に努めた。

(イ) 情報教育の充実のため、教員の研修に努めた。

(ウ) 産業教育関係機関との連携により、産業教育の振興に努めた。

(4) 教職員の資質の向上と学校管理運営の充実

ア 現職教育の充実

(ア) 校内における研修体制の改善・充実に努めた。

(イ) 研修会、講習会等への積極的な参加を促進し、指導力の向上を図った。

(ウ) 自己研修の充実により、教職員の能力が効果的に発揮されるように努めた。

イ 学校管理運営の適正化

(ア) 学校経営・運営ビジョンを定め、その達成度を客観的に評価し、その結果を公表するように努めた。

(イ) 管理者が学校管理運営について積極的に指導助言を行うよう努めた。

(ウ) 諸表簿の整理と保管、設備・備品の管理と活用については、適正に行われるように努めた。

(エ) 学校事務の責任分担を明確にし、正確、敏速、円滑に

処理するよう努めた。

- (ウ) 各種調査報告について、厳正、的確に作成し、期限の厳守に努めた。

ウ 勤務体制の確立

教職員の勤務内容を明確にし、その実績について客観的に評価できるようにした。

エ 使命感の高揚

- (ア) 教育公務員としての使命感に徹し、規律と責任ある体制を整え、教育能率の向上に努めた。
- (イ) 教育公務員としての立場を自覚するとともに、服務倫理委員会を活用して事故防止に努め、社会的信用を失墜させることのないようにした。
- (ウ) 絶えず自己研修に努め、豊かな知性を養い、指導力を高め、職責を十分果たせるようにした。

(5) 教育環境の整備充実

ア 学習環境の整備充実

- (ア) 環境整備については、計画的に充実を図った。
- (イ) 学習環境を整備し、学習意欲の高揚を図った。
- (ウ) 施設・設備の管理と運営の適正化を図った。

イ 学校事故防止の徹底

- (ア) 安全教育の計画的実施と、事故防止を配慮した環境の整備改善に努めた。
- (イ) 学校事故、教職員事故の防止については、適切な対策を講じ、事故の絶無を期した。
- (ウ) 指導・管理の充実を図るため、関係機関、団体等との連携を密にして協力体制の確立に努めた。

(6) 県立高等学校入学者選抜

ア 基本方針

令和6年度福島県立高等学校入学者選抜における基本方針

(ア) 特色選抜

特色選抜は、各高等学校が自校の特色に応じてどのような受験生に志願してほしいかを選抜方法と併せて明示し、受験生は、それに従って自分の志願したい高等学校を主体的に選択し出願できる選抜とする。選抜に当たっては、受験生の個性や学ぶ意欲を重視するとともに、自校の特色に応じた選抜となるよう選抜資料を活用し、各高等学校の教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜するものとする。

なお、特色選抜の性格をより明確にするため、各高等学校の「志願してほしい生徒像」については、より具体的な記載を可能とする。

- a 選抜に当たっては、志願理由書の記載内容、調査書の審査結果、学力検査の成績及び特色選抜に係る面接（以下「特色面接」という。）の結果を資料とする。なお、各高等学校の判断により、学校の特色や学科の特性に応じて、小論文（又は作文）、実技等（以下「特色検査」という。）の結果を選抜資料に加えることができるものとする。
- b 特色選抜においては、各高等学校が自校の教育目標にふさわしい入学者を選抜するため、受験生を多面的・

多面的に評価するための資料の一つとして特色面接の結果及び特色検査を実施した場合にはその結果を積極的に活用するものとする。

- c 特色選抜の定員枠については、県教育委員会が定める範囲の中で、各高等学校が、その特色や学科の特性に応じて設定するものとする。
- d 可否の判定に当たっては、調査書の審査結果、学力検査の成績、特色面接の結果及び特色検査を実施した場合にはその結果の比重を、県教育委員会が定めた範囲内で各高等学校がその特色や学科の特性に応じて定めるものとする。

(イ) 一般選抜

一般選抜は、中学校における学習活動の成果を総合的にみる選抜とする。選抜に当たっては、学力検査の成績、調査書の審査結果を資料とし、さらに一般選抜に係る面接（以下「一般面接」という。）を実施する高等学校においては一般面接の結果を併せて資料とし、各学校の特色、学科の特性等に配慮しつつ、その教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜するものとする。

- a 特定の教科の学力検査の配点の比重を変える傾斜配点については、各学校の特色・学科の特性を考慮し、各高等学校の判断により実施することができるものとする。

また、志願者の自己申告による傾斜配点についても、各高等学校の判断により実施できるものとする。

- b 一般選抜の可否判定に当たっては、学力検査と調査書の成績の比重を原則として同等とする。

ただし、各高等学校が自校の特色化を図るために必要と判断する場合には、学力検査と調査書の成績の比重を変えることができるものとする。

- c 一般面接については、各高等学校の判断により実施できるものとする。

(ウ) 後期選抜

後期選抜は、前期選抜及び連携型中高一貫教育に係る入学者選抜（以下「連携型選抜」という。）により定員（併設型中高一貫教育校における高等学校においては、当該高等学校に係る併設型中高一貫教育校における中学校から当該高等学校への入学を志願する者の数を除いた数とする。）を充足しない高等学校において実施するものとし、前期選抜及び連携型選抜の受験の有無にかかわらず出願できる選抜とする。

選抜に当たっては、調査書の審査結果、面接の結果及び小論文（又は作文）の結果を資料として、各高等学校の教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜するものとする。

なお、前期選抜又は連携型選抜に合格した者は出願できないものとする。

- a 選抜に当たっては、調査書の成績とともに、面接の結果及び小論文（又は作文）の結果を十分に精査する。

b 前期選抜に係る学力検査の成績は、後期選抜の資料とはしないものとする。

c 後期選抜における面接は、受験生の学ぶ意欲をみる内容とともに、中学校における学習活動の成果を問う内容を含むことができるものとする。

なお、併設型中高一貫教育校における中学校から当該中学校に係る併設型中高一貫教育校における高等学校への入学を志願する者については、各選抜に出願することはできないものとする。

新型コロナウイルス感染症に係る特例措置について

1 令和6年度県立高等学校入学者選抜においては、新型コロナウイルス感染症に係る特例措置について、次のように見直す。

- (1) 新型コロナウイルス感染症対応選抜を設定しない。
- (2) 健康状態チェックリストの提出は不要とする。
- (3) 新型コロナウイルス感染症に罹患した状態で選抜を欠席した者については、インフルエンザ等学校感染症に罹患した状態になり欠席した者と同様に扱う。また、学力検査等の際の別室受験についてもインフルエンザ等罹患者と同様とする。
- (4) 「新型コロナウイルス感染症への対応により、検査が未完了の状態となった受験生への対応」は実施しない。

2 令和6年度県立高等学校入学者選抜においては、特色選抜の「志願してほしい生徒像」の記載において、大会実績や資格取得等を出願要件にすることを可能とする。

中学校における部活動の地域移行に伴う対応について

1 令和6年度県立高等学校入学者選抜においては、中学校における部活動の地域移行に伴い、次のとおり取り扱う。

- (1) 特色選抜の「志願してほしい生徒像」の記載において、中学校における部活動の加入のみで出願要件を限定しない。
- (2) 校外でのスポーツクラブ等の記録は「長所・特技等の記録」の欄に記載することとしているため、すべての選抜において、調査書の「各教科の学習の記録」以外の記載項目について、点数化の方法を学科ごとに定めることができるものとする。
- (3) 調査書の点数化について、部活動や地域クラブ活動等の実績等の評価の有無、評価の方法（点数化、段階評価など）、評価の観点（実績、取組内容など）を明記することとする。

(e) 連携型選抜

連携型中高一貫教育を実施する高等学校（以下「連携型高等学校」という。）において、連携型中高一貫教育を実施する中学校（以下「連携型中学校」という。）から目的意識や意欲のある生徒の入学を促進し、6年間を通して生徒一人一人の個性をより重視した教育の実現を図るため、連携型選抜を実施する。

a 募集定員枠については、別に公告する募集定員の30%を下限とし、各連携型高等学校が学校・学科の特色や地域の特性に応じて設定する。

ただし、定員枠については、当該高等学校長はあらかじめ県教育委員会と協議するものとする。

また、特色選抜の募集定員枠は、これとは別に設定するものとし、併設型中高一貫教育校における高等学校においては、これらの割合について、別に公告する募集定員から当該高等学校に係る併設型中高一貫教育校における中学校の第3学年に在学する者（11月1日現在）の数を除いた数に対する割合とする。

なお、合否の判定に当たっては、志願者の動向や各学校・学科の実態に応じて、弾力的に対応することができる。

b 連携型高等学校の連携型選抜に出願することができる者は、当該高等学校と連携している中学校を卒業する見込みの者とする。

なお、連携型中学校を卒業する見込みの者は、当該中学校と連携している高等学校の特色選抜へ出願することはできない。

c 受験生の個性や学ぶ意欲をみるとともに、連携している内容に応じた選抜となるよう配慮し、各連携型高等学校の教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜するものとする。

d 志願者全員に学力検査を課す。学力検査を実施する教科は、国語、社会、数学、理科、外国語（英語）の5教科とし、学力検査の問題作成や配点については、前期選抜と同様とする。

e 選抜に当たっては、中学校長から提出された調査書の審査結果、学力検査の成績及び連携型選抜に係る面接（以下「連携型面接」という。）の結果を資料とする。

なお、各連携型高等学校長の判断により、各連携型高等学校が連携している教育課程に基づいた内容に応じた選抜方法に加え、学校の特色や学科の特性等に関する内容に応じた選抜方法（以下これらを「連携型検査」という。）を選択して実施した場合には、それらの結果を併せて資料として選抜を行うことができるものとする。

f 合否の判定に当たっては、調査書の審査結果、学力検査の成績、連携型面接の結果及び連携型検査を実施した場合にはその結果の比重を、県教育委員会が定めた範囲内で各高等学校がその特色や学科の特性に応じて定めるものとする。

g 連携型選抜の志願者は、出願した高等学校において一般選抜にも出願できるものとするが、その場合、各連携型高等学校は、連携型選抜、一般選抜の順に合否判定を行う。

h 連携型選抜に出願する者は、特色選抜との併願はできない。

新型コロナウイルス感染症に係る特例措置について

1 令和6年度県立高等学校入学者選抜においては、新型コロナウイルス感染症に係る特例措置について、次のように見直す。

- (1) 新型コロナウイルス感染症対応選抜を設定しない。
- (2) 健康状態チェックリストの提出は不要とする。
- (3) 新型コロナウイルス感染症に罹患した状態で選抜を欠席した者については、インフルエンザ等学校感染症に罹患した状態になり欠席した者と同様に扱う。また、学力検査等の際の別室受験についてもインフルエンザ等罹患者と同様とする。
- (4) 「新型コロナの影響により、検査が未完了の状態となった受験生への対応」は実施しない。

中学校における部活動の地域移行に伴う対応について

- 1 令和6年度県立高等学校入学者選抜においては、中学校における部活動の地域移行に伴い、次のとおり取り扱う。
- (1) 校外でのスポーツクラブ等の記録は「長所・特技等の記録」の欄に記載することとしているため、調査書の「各教科の学習の記録」以外の記載項目について、点数化の方法を学科ごとに定めることができることとする。
 - (2) 調査書の点数化について、部活動や地域クラブ活動等の実績等の評価の有無、評価の方法（点数化、段階評価など）、評価の観点（実績、取組内容など）を明記することとする。

イ 入学者選抜関係日程

- 6月8日 第1回県立中学校・高等学校入学者選抜事務調整会議
- 7月19日 第2回県立中学校・高等学校入学者選抜事務調整会議
- 8月23日 第3回県立中学校・高等学校入学者選抜事務調整会議
- 8月23日 県立中学校・高等学校入学者選抜方法の改善等に関する調査研究報告書提出
- 10月10日～10月11日
オンライン方式で入学者選抜実施要綱説明会実施
- 10月21日 令和6年度入学者募集定員決定

(ア) 前期選抜関係日程

- 2月5日～2月8日 出願書類受付
- 2月9日～2月14日 出願先変更
- 2月15日～2月16日 調査書提出
- 3月5日 学力検査
- 3月5日～3月7日 面接等
- 3月11日～3月12日 追検査等
- 3月14日 合格者発表

(イ) 後期選抜関係日程

- 3月15日～3月18日 出願書類受付

- 3月19日 出願先変更
- 3月22日 面接等
- 3月25日 合格者発表

(ウ) 連携型選抜関係日程

- 2月5日～2月8日 出願書類受付
- 2月9日～2月14日 出願先変更
- 2月15日～2月16日 調査書提出
- 3月5日 学力検査
- 3月5日～3月7日 面接等
- 3月11日～3月12日 追検査等
- 3月14日 合格者発表

(エ) 通信制の課程選抜日程

- 2月5日～3月29日 出願書類受付
- 4月5日 合格者発表(個人宛通知)

ウ ふたば未来学園高等学校の入学者選抜

平成27年度入学者選抜において、双葉高等学校(普通科)、浪江高等学校(普通科)、浪江高等学校津島校(普通科)、富岡高等学校(国際・スポーツ科)、双葉翔陽高等学校(総合学科)を募集停止とし、平成27年4月にふたば未来学園高等学校を開校した。令和6年度連携型選抜においては、次の(ア)～(ウ)に該当する者を出願資格を有する者とした。

- (ア) 出願時にJFAアカデミー福島又は双葉地区未来創造型リーダー育成構想(新双葉地区教育構想)ピクトリープログラムに参加している者
- (イ) 次の双葉郡の中学校に在籍している者
双葉郡浪江町立なみえ創成中学校
双葉郡葛尾村立葛尾中学校
双葉郡双葉町立双葉中学校
双葉郡大熊町立学び舎ゆめの森
双葉郡富岡町立富岡中学校
双葉郡川内村立川内小中学園
双葉郡檜葉町立檜葉中学校
双葉郡広野町立広野中学校
- (ウ) ふたば未来学園高等学校との連携型中高一貫教育を実施している中学校に在籍している者以外で、東日本大震災が発生した時に、双葉郡内に居住していた者又は双葉郡内に保護者が居住していた者で、中学校若しくはこれに準ずる学校若しくは義務教育学校若しくは中等教育学校の前期課程を令和6年3月に卒業見込又は修了見込の者

エ 志願者数・合格者数

◇各選抜ごとの集計

※「普通科等」には、普通科、理数科、数理科学科、文理科、文理探究科、国際文化科、英語科、スポーツ科、デザイン科学科、国際科学科が含まれる。

(ア) 特色選抜

《全日制》

| 学科 | 募集定員 | 特色選抜定員 | 志願者数 | 志願倍率 | 合格者数 |
|------|--------|--------|-------|------|-------|
| 普通科等 | 6,440 | 1,087 | 932 | 0.86 | 775 |
| 農業 | 1,000 | 194 | 90 | 0.46 | 58 |
| 工業 | 1,800 | 458 | 335 | 0.73 | 303 |
| 商業 | 1,200 | 456 | 407 | 0.89 | 356 |
| 水産 | 120 | 48 | 30 | 0.63 | 26 |
| 家庭 | 40 | 4 | 2 | 0.50 | 2 |
| 総合 | 1,280 | 383 | 275 | 0.72 | 244 |
| 計 | 11,880 | 2,630 | 2,071 | 0.79 | 1,764 |

《定時制》

| 学科 | 募集定員 | 特色選抜定員 | 志願者数 | 志願倍率 | 合格者数 |
|----|------|--------|------|------|------|
| 普通 | 400 | 48 | 20 | 0.42 | 11 |
| 工業 | 40 | 8 | 0 | 0.00 | 0 |
| 計 | 440 | 56 | 20 | 0.36 | 11 |

(イ) 連携型中高一貫教育に係る入学者選抜（連携型選抜）

| 学科 | 連携型選抜定員 | 志願者数 | 志願倍率 | 合格者数 |
|----|---------|------|------|------|
| 工業 | 36 | 1 | 0.03 | 1 |
| 総合 | 138 | 89 | 0.64 | 84 |
| 計 | 174 | 90 | 0.52 | 85 |

(ウ) 前期選抜、連携型選抜

《全日制》

| 学科 | 募集定員 | 志願者数 | 志願倍率 | 合格者数 |
|------|--------|--------|------|--------|
| 普通科等 | 6,440 | 6,443 | 1.00 | 5,749 |
| 農業 | 1,000 | 880 | 0.88 | 817 |
| 工業 | 1,800 | 1,650 | 0.92 | 1,554 |
| 商業 | 1,200 | 1,183 | 0.99 | 1,060 |
| 水産 | 120 | 119 | 0.99 | 106 |
| 家庭 | 40 | 33 | 0.83 | 32 |
| 総合 | 1,280 | 971 | 0.85 | 943 |
| 計 | 11,880 | 11,279 | 0.96 | 10,261 |

※ 「総合」及び「計」の志願倍率は、会津学鳳中学校から会津学鳳高等学校への入学予定者 81 名と、ふたば未来学園中学校からふたば未来学園高等学校への入学予定者 54 名を、入学定員から減じて算出した値である。

《定時制》

| 学科 | 募集定員 | 志願者数 | 志願倍率 | 合格者数 |
|----|------|------|------|------|
| 普通 | 400 | 243 | 0.61 | 220 |
| 工業 | 40 | 7 | 0.18 | 6 |
| 計 | 440 | 250 | 0.57 | 226 |

(エ) 外国人生徒等に係る特別枠選抜

| 募集定員 | 志願者数 | 合格者数 |
|------|------|------|
| 若干名 | 10 | 5 |

(カ) 後期選抜

《全日制》

| 学科 | 募集定員 | 志願者数 | 合格者数 |
|------|-------|------|------|
| 普通科等 | 691 | 101 | 88 |
| 農 業 | 183 | 39 | 32 |
| 工 業 | 246 | 29 | 24 |
| 商 業 | 140 | 22 | 19 |
| 水 産 | 14 | 8 | 8 |
| 家 庭 | 8 | 3 | 1 |
| 総 合 | 202 | 28 | 23 |
| 計 | 1,484 | 230 | 195 |

《定時制》

| 学科 | 募集定員 | 志願者数 | 合格者数 |
|-----|------|------|------|
| 普 通 | 180 | 34 | 29 |
| 工 業 | 34 | 5 | 3 |
| 計 | 214 | 39 | 32 |

◇後期選抜実施後の最終集計

※「普通科等」には、普通科、理数科、数理科学科、文理科、文理探究科、国際文化科、英語科、スポーツ科、デザイン科学科、国際科学科が含まれる。

《全日制》

| 学科 | 募集定員 | 特色選抜
合格者数 | 連携型選抜
合格者数 | 前期選抜
連携型選抜
合格者数 | 後 期 選 抜
合 格 者 数 | 合格者数 |
|------|--------|--------------|---------------|-----------------------|--------------------|--------|
| 普通科等 | 6,440 | 775 | | 5,749 | 88 | 5,837 |
| 農 業 | 1,000 | 58 | | 817 | 32 | 849 |
| 工 業 | 1,800 | 303 | | 1,554 | 24 | 1,578 |
| 商 業 | 1,200 | 356 | 1 | 1,060 | 19 | 1,079 |
| 水 産 | 120 | 26 | | 106 | 8 | 114 |
| 家 庭 | 40 | 2 | | 32 | 1 | 33 |
| 総 合 | 1,280 | 244 | 84 | 943 | 23 | 966 |
| 計 | 11,880 | 1,764 | 85 | 10,261 | 195 | 10,456 |

《定時制》

| 学科 | 募集定員 | 特色選抜
合格者数 | 連携型選抜
合格者数 | 前期選抜
合格者数 | 後 期 選 抜
合 格 者 数 | 合格者数 |
|-----|------|--------------|---------------|--------------|--------------------|------|
| 普 通 | 400 | 11 | | 220 | 29 | 249 |
| 工 業 | 40 | 0 | | 6 | 3 | 9 |
| 計 | 440 | 11 | | 226 | 32 | 258 |

2 現職教育

(1) 各種研修並びに講習会

| 名 称 | 期日 | 期間 | 会 場 | 参加者 |
|-----------------------------|--|----------|-----------|--------------------------|
| 県立学校新任校長・副校長研修会 | 5.9～10 | 2日 | 教育センター | |
| 県立学校新任教頭研修会 | 5.11～12 | 2日 | 教育センター | |
| 中核教諭研修 | 10.25～27 | 3日 | 教育センター | 県立学校中核教諭 56名 |
| 初任者研修（基本研修） | 4.4～5 | 2日 | 教育センター | 高等学校初任者研修 |
| 〃（一次研修） | 4.18～19, 4.26 | 3日 | 教育センター | 対象教員 38名 |
| 〃（二次研修） | 1.31, 2.7～8 | 3日 | 教育センター | |
| 〃 地区別（教科別） | 1班 8.30～9.1
2班 9.11～13 | 3日
3日 | | |
| 〃 地区別（一般Ⅰ） | 4.12～14 | 3日 | 各所属校 | |
| 〃 地区別（一般Ⅱ） | 10.4 | 1日 | 各地区施設、学校等 | |
| 〃 地区別（カウンセリング） | 7.24～8.24 | | | |
| 〃 地区別（特別活動等） | 9.6 | 1日 | | |
| 〃 地区別（社会奉仕等体験） | 5.3～11.8 | | | |
| 〃 地区別（安全教育） | 5.17 | 1日 | | |
| 2年次教員フォローアップ研修
（教科等指導研修） | 7.3 | 1日 | 教育センター | 高等学校初任者研修
修了教員 39名 |
| 〃（企業体験研修） | 7.25～7.27 | 3日 | 各企業等 | |
| 〃（所属校における研修） | 4月～3月 | 30時間 | 各所属校 | |
| 5年経験者研修（校外研修） | 1班
9.8, 10.4, 10.18
2班
9.15, 10.17～18 | 3日 | 教育センター | 県立学校教職経験
5年を経過した者 47名 |
| 〃（所属校における研修） | 5月～12月 | 5日 | 各所属校 | |
| 中堅教諭等資質向上研修 | 4.12 | 1日 | 教育センター | 県立学校教職経験 |
| 〃（生徒指導研修） | 7.4 | 1日 | 教育センター | 10年を経過した者 68名 |
| 〃（教科指導研修Ⅰ） | 7.10 | 1日 | 教育センター | |
| 〃（教科指導研修Ⅱ） | 2.2 | 1日 | 教育センター | |
| 〃（マネジメント） | 6.16 | 1日 | 教育センター | |
| 〃（特別活動 選択） | 9.7 | 1日 | 各所、施設等 | |

(2) 教員体験研修（2か月）

実施せず

(3) 教職員等中央研修

ア 趣旨

学校経営力向上のための高度で専門的な知識等を習得させ、各地域の中核となる校長、教頭、中堅教員を育成する。

イ 主催 独立行政法人教員研修センター

ウ 共催 文部科学省

エ 会場 つくば中央研修センター

オ 期間及び参加者

◇校長研修（11月27日～12月1日）

県立白河実業高等学校長 永山 広克

◇副校長・教頭等研修（8月21日～8月25日）

県立小高産業技術高等学校副校長 池田 光治

◇中堅教員研修（9月11日～9月15日）

県立南会津高等学校教諭 山本 寛

◇中堅教員研修（9月11日～9月15日）

県立二本松実業高等学校教諭 吉田 由香里

◇リーダー教員育成研修（7月31日～8月4日）

県立小野高等学校教諭 白石 裕太

◇リーダー教員育成研修（7月31日～8月4日）

県立郡山北工業高等学校教諭 志田 博隆

(4) 学校組織マネジメント指導者養成研修

ア 趣旨

学校組織マネジメントの理論を身に付け、的確な校長のリーダーシップと経営理念のもとに戦略を構築し、学校内外の資源を活用することができるようにする。

イ 主催 独立行政法人教員研修センター

ウ 共催 文部科学省

エ 会場 学習管理システムを用いたオンライン研修

オ 期間及び参加者（8月1日～8月31日の期間中、任意の3日間）

県立安積黎明高等学校教頭 榎田 みゆき

3 教育課程

(1) 高等学校各教科等担当指導主事連絡協議会

ア 目的

高等学校学習指導要領の趣旨の実現を目指し、教育課程の編成及び実施上の諸問題に関する説明、協議、情報交換等を行い、もって高等学校における教育課程の適切な実施を図ることを目的とする。

イ 主催 文部科学省

ウ 共催 国立教育政策研究所

エ 期日 6月23日（金）、26日（月）、28日（水）～30日（金）、7月4日（火）、7日（金）、10日（月）

オ 会場 国立オリンピック記念青少年総合センター
（ハイブリッド形式による開催）

カ 参加者

| 部会 | 氏名 | 所属 |
|-----------|-------|----------|
| 総 則 | 梅野 克也 | 高校教育課 |
| 国 語 | 鈴木美紀子 | 高校教育課 |
| 地 理 歴 史 | 近内 正幸 | 高校教育課 |
| 公 民 | 野内 鑑 | 高校教育課 |
| 数 学 | 宗形 聡 | 高校教育課 |
| 理 科 | 高橋 信幸 | 高校教育課 |
| 保 健 体 育 | 酒井 祐一 | 健康教育課 |
| 音 楽 | 深田 裕子 | 高校教育課 |
| 美 術 ・ 工 芸 | 梅野 史代 | 教育センター |
| 書 道 | 上田 彩 | 郡山商業高等学校 |
| 外 国 語 | 小澤 恵子 | 高校教育課 |
| 家庭（共通） | 岩淵 優子 | 高校教育課 |
| 情報（共通） | 大内 祐司 | 教育センター |
| 理 教 | 高橋 信幸 | 高校教育課 |
| 農 業 | 遠藤 智子 | 高校教育課 |
| 工 業 | 先崎 隆幸 | 高校教育課 |
| 商 業 | 猪狩 晃一 | 高校教育課 |
| 水 産 | 遠藤 智子 | 高校教育課 |
| 家庭（専門） | 岩淵 優子 | 高校教育課 |
| 看 護 | 岩淵 優子 | 高校教育課 |
| 情報（専門） | 大内 祐司 | 教育センター |
| 福 祉 | 瀬谷佳代子 | 教育センター |
| 総合的な探究の時間 | 門馬 邦行 | 県中教育事務所 |
| 特 別 活 動 | 菊地 祐介 | 県南教育事務所 |

(2) 高等学校各教科等教育課程研究協議会

ア 目的

高等学校学習指導要領の趣旨の実現を目指し、教育課程の編成及び実施上の諸問題に関する研究協議、情報交換等を行い、もって高等学校における教育課程の適切な実施を図ることを目的とする。

イ 主催 文部科学省

ウ 共催 国立教育政策研究所

エ 期日 11月15日（水）、21日（火）、22日（水）、11月24日（金）、27日（月）～30日（木）

オ 会場 国立オリンピック記念青少年総合センター
（ハイブリッド形式による開催）

カ 参加者

| 部会 | 氏名 | 所属 |
|-----------|-------|----------|
| 総 則 | 梅野 克也 | 高校教育課 |
| 国 語 | 鈴木美紀子 | 高校教育課 |
| 地 理 歴 史 | 近内 正幸 | 高校教育課 |
| 公 民 | 野内 鑑 | 高校教育課 |
| 数 学 | 宗形 聡 | 高校教育課 |
| 理 科 | 高橋 信幸 | 高校教育課 |
| 保 健 体 育 | 酒井 祐一 | 健康教育課 |
| 音 楽 | 深田 裕子 | 高校教育課 |
| 美 術 ・ 工 芸 | 梅野 史代 | 教育センター |
| 書 道 | 上田 彩 | 郡山商業高等学校 |
| 外 国 語 | 小澤 恵子 | 高校教育課 |
| 家庭（共通） | 岩淵 優子 | 高校教育課 |
| 情報（共通） | 大内 祐司 | 教育センター |
| 理 数 | 高橋 信幸 | 高校教育課 |
| 農 業 | 遠藤 智子 | 高校教育課 |
| 工 業 | 先崎 隆幸 | 高校教育課 |
| 商 業 | 猪狩 晃一 | 高校教育課 |
| 水 産 | 遠藤 智子 | 高校教育課 |
| 家庭（専門） | 岩淵 優子 | 高校教育課 |
| 看 護 | 岩淵 優子 | 高校教育課 |
| 情報（専門） | 大内 祐司 | 教育センター |
| 福 祉 | 岩淵 優子 | 高校教育課 |
| 総合的な探究の時間 | 門馬 邦行 | 県中教育事務所 |
| 特 別 活 動 | 菊地 祐介 | 県南教育事務所 |

(3) 福島県高等学校教育課程講習会

ア 目的

新高等学校学習指導要領について、その趣旨や内容を説明することにより、各学校において円滑に実施できるようにし、特に観点別学習状況評価について丁寧に説明するとともに、教育課程実施に伴う諸問題について研究協議等を実施することにより、高等学校教育の改善及び充実を図る。

イ 主催 文部科学省及び福島県教育委員会

ウ 期日・会場・各地区参加者数

| 地区 | 期日 | 会場 | 参加者数 |
|-----------------|-------|-----------|------|
| 全地区
(情報部会のみ) | 7月28日 | コミュニティ福島 | 80 |
| 相 双 | 8月1日 | 相馬高等学校 | 68 |
| 会津・南会津 | 8月2日 | 会津学鳳高等学校 | 116 |
| 県中・県南 | 8月3日 | 清陵情報高等学校 | 300 |
| いわき | 8月4日 | いわき光洋高等学校 | 143 |
| 県 北 | 8月7日 | 福島南高等学校 | 166 |
| 合 計 | | | 873 |

エ 部会の参加者

設置部会及び参加者数は次の通りである。

| 部 会 | 参加者数 | 部 会 | 参加者数 |
|-------|------|-------|------|
| 総 則 | 45 | 書 道 | 実施せず |
| 国 語 | 101 | 外 国 語 | 99 |
| 地理歴史 | 68 | 家 庭 | 27 |
| 公 民 | 実施せず | 情 報 | 80 |
| 数 学 | 100 | 農 業 | 35 |
| 理 科 | 70 | 工 業 | 84 |
| 保健体育 | 91 | 商 業 | 63 |
| 音 楽 | 実施せず | 水 産 | 10 |
| 美術・工芸 | 実施せず | 看護・福祉 | 実施せず |
| 合 計 | | | 873 |

(4) 情報教育の充実

ア 情報教育研修

(ア) 専門研修 高等学校教育の産業教育及び教育センターの情報処理教育講座の欄参照

(イ) 一般研修 各種研修において情報処理に関する演習等を実施

イ 情報処理関係学科の設置状況

| | | |
|----|--------|----------------------|
| 農業 | 生産情報 | 福島明成 |
| | 情報技術 | 郡山北工業 |
| | 電気情報 | 会津工業 |
| 工業 | 情報電子 | 福島工業、清陵情報 |
| | 情報システム | 二本松実業 |
| | 情報工学 | 平工業 |
| 商業 | 情報処理 | 郡山商業、清陵情報 |
| | 情報会計 | 福島南、本宮、清陵情報 |
| | 情報ビジネス | 福島商業、白河実業、修明
若松商業 |
| | オフィス情報 | 須賀川創英館 |
| | 情報システム | 平商業 |
| | 産業革新 | 小高産業技術 |
| 水産 | 情報通信 | 小名浜海星 |

ウ ICTを活用した新しい時代の教育研究開発事業に係

る指導力向上開発校の指定

(ア) 目的

ICTを全ての教育活動で活用する新しい時代を迎えるにあたり、指導力向上開発校(モデル校)を指定し、優先的にICT機器を整備し、それらを活用した主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を図ることにより、当該校の学習活動の一層の充実を図る。

また、指導事例の蓄積とそれを支える校内指導体制の充実について研究を進め、その研究成果を公開授業等の実施により県立高校全校に普及させるとともに、ICT環境整備と教員のICT活用指導力の向上を一体的に実現するモデルを構築する。

(イ) 第1期指定校(令和2年～令和4年)

福島高等学校、保原高等学校、安積高等学校
光南高等学校、若松商業高等学校

(ウ) 第2期指定校(令和3年～令和5年)

福島西高等学校、あさか開成高等学校、白河高等学校
会津高等学校、会津工業高等学校

(5) 国際理解教育の充実

語学指導等を行う外国青年招致事業

国際化に対応できる人材の育成及び外国語教育の充実

ア 招致人数 34名

イ 配 置 ○県内23の高校に各1名を配置、配置校における指導及び訪問指導

○県内9つの高校に各1名、県立中学校に各2名配置、専任校における指導

4 学力向上対策等

(1) 令和5年度文部科学省指定各種研究校

| 研究種別 | 学校名 | 指定年度 | 研究主題 |
|----------------------|------|---------------|--|
| スーパーサイエンスハイスクール(SSH) | 会津学鳳 | R3
～
R7 | 新たな社会である Society 5.0 の実現と新たな情報化の時代の創造、及びSDGsの達成に代表される持続可能な社会の形成に貢献する科学者を会津から育成するため、会津大学や会津の企業等の会津の地域資源を活用し、人材育成のための効果的な教育プログラムの研究開発を行う。 |
| | | R4
～
R8 | 地域発のサイエンスリーダーとして高い探究心を持ち、社会課題を解決できる科学技術人材に必要な5つの資質・能力(探究力・研究力、傾聴力・発信力、完遂力、情報分析力、往還力)を育成するため、4つの研究テーマを設定し、学校設定科目「SS探究」を中心とした研究実践による研究開発を行う。 |

| 研究種別 | 学校名 | 指定年度 | 研究主題 |
|------|-----|---------------|---|
| | 安積 | R1
～
R5 | 自ら進んで課題に向き合い、新しい社会を創出し、地域から世界を牽引できる科学技術系リーダーを育成するために、主体的・協働的な探究型学習を推進する教育プログラムを開発し、それを支え、発展させる新しい地域教育・共創モデルを確立するための研究開発を行う。 |

(2) 「ふくしま高校生学びの变革支援事業」

ア 未来を担う高校生の資質・能力育成事業

予備校講師によるレベルの高い授業を参集で実施し、学力の向上を図るとともに、進路意識の高揚を図り、将来リーダーシップを発揮し社会に貢献できる人材としての礎を築いた。

- 対象：難関大学進学への意識・意欲の高い県立高等学校1年生及び2年生。
- 期日：【1年生】
令和5年8月9日に開催。
【2年生】
令和6年3月21日に開催。

イ 進路実現のための資質・能力育成事業

アクティブ・ラーニングの視点も取り入れて、生徒の大学進学へ向けた早期の意識改革と学力向上を図った。さらには、教員の教科指導力や進路指導力の向上を図るとともに、各学校における指導内容や指導法等について情報共有や連携を進めて、3年間を見通した計画的な指導体制の充実を図った。

- 対象校：県立高等学校21校
福島、橘、福島西、福島東、安積、安積黎明、郡山東、郡山、須賀川桐陽、白河、白河旭、会津、葵、会津学鳳、喜多方、磐城、磐城桜が丘、いわき光洋、ふたば未来学園、相馬、原町

ウ 科学の甲子園福島県大会

生徒の理数に関する興味・関心を高めるとともに、意欲ある生徒の再生可能エネルギーの研究開発や放射線医学などを担う能力の育成を図ることを目的に開催した。科学技術・理科・数学等における複数分野の知識・技能を競い合った。

- 実施日：令和5年11月12日

(3) 震災と復興を未来へつむぐ高校生語り部事業

ア 震災関連学習・語り部活動の人材育成

- 実践校：県立高等学校17校
福島、福島明成、安積、あさか開成、岩瀬農業、白河、船引、小野、会津学鳳、南会津、只見、磐城、いわき総合、ふたば未来学園、相馬、相馬総合（新地校舎含む）、原町

イ 県内の学校間での交流

- 対象：実践校17校
- 期日：令和6年1月29日
- 内容：浅野撚糸株式会社双葉事業所フタバスーパーゼロミル見学、語り部の発表

ウ 県外・海外の学校等との交流

実践校8校が、県外・海外の高校等と交流を行った。

エ 震災学習のためのリーフレットの作成・配布

語り部活動の成果をまとめ、交流先へ配布した。

オ 伝承館を利用した教員研修

- (ア) 県立高等学校の教員を対象とした研修会
 - 対象：県立高等学校初任者研修対象教員
 - 期日：令和5年11月1日
 - 内容：館内見学、フィールドワーク、語り部講話の受講
- (イ) 公立小・中学校の教員を対象とした研修会
 - 対象：若手教員または校内研修担当教員等
 - 実施日：令和5年8月10日、11月29日
 - 内容：館内見学、フィールドワークなど

(4) WWLコンソーシアム構築支援事業

原子力災害からの復興を果たし、持続可能な社会を創造していくグローバル・リーダーの資質・能力の育成に取り組むふたば未来学園中学校・高等学校を拠点校に指定し、探究と海外研修を軸とし、また、大学と連携したグローバル人材育成のカリキュラムの開発・実践、その体制整備を支援した。

- 事業拠点校：1校
ふたば未来学園中学校・高等学校
- 事業連携校（県内）：5校
福島、安積、会津、会津学鳳、磐城
- 事業連携校（県外）：2校
宮城県仙台二華中学校・高等学校
山形県立東桜学館中学校・高等学校

5 生徒指導・進路指導

(1) 教育事務所指導主事の活動

県内7地区の教育事務所の指導主事の活動によって生徒指導の充実を図った。

主な活動は次のとおりである。

- ア 地区内の高等学校の訪問指導（計画・随時）
- イ 地区内の高等学校生活指導協議会の指導・援助
- ウ 関係諸機関、諸団体との連携
- エ 生徒指導関係の情報と資料の収集
- オ 生徒指導関係の諸研修会における指導

(2) スクールカウンセラーの配置

生徒の問題行動の多様化や深刻化、東日本大震災に伴う心のケアに対応するため、全ての県立高等学校（73校）にスクールカウンセラーを配置した。

6 学校行事

(1) 卒業式

ア 県立高等学校卒業生数

| 課程 | 性別 | | 計 |
|-----|-------|-------|--------|
| | 男 | 女 | |
| 全日制 | 5,485 | 4,959 | 10,444 |
| 定時制 | 87 | 68 | 155 |
| 通信制 | 41 | 65 | 106 |
| 計 | 5,613 | 5,092 | 10,705 |

イ 卒業式実施期日

| 日付 | 種別 | | | 計 |
|------|-----|-----|-----|----|
| | 全日制 | 定時制 | 通信制 | |
| 3月1日 | 68 | 5 | 0 | 73 |
| 3月3日 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| 計 | 68 | 5 | 1 | 74 |

ウ 県知事、県議会議長、県教育長臨席校

県知事臨席校 3月1日 原町高等学校
川俣高等学校

県議会議長臨席校 福島東高等学校

県議会副議長臨席校 安積高等学校

県教育長臨席校 磐城高等学校

いわき湯本高等学校(遠野校舎)

(2) 修学旅行(県立高等学校) ()は前年度

ア 参加生徒総数 10,325人(10,272人)

イ 参加率 94.4%(96.0%)

ウ 行先

| 行先 | 校数 |
|---------------|---------|
| 県内 | 0 (0) |
| 北海道 | 2 (1) |
| 北海道・東北 | 0 (2) |
| 東北 | 0 (0) |
| 東北・関東 | 0 (0) |
| 東北・北陸 | 0 (0) |
| 北陸 | 0 (3) |
| 北陸・近畿 | 1 (0) |
| 関東 | 1 (4) |
| 関東・中部 | 0 (0) |
| 東海 | 0 (0) |
| 近畿(奈良・京都・大阪等) | 53 (56) |
| 中国・近畿 | 11 (6) |
| 近畿・四国 | 4 (0) |
| 近畿・四国・中国 | 0 (2) |
| 九州 | 4 (2) |
| 沖縄 | 2 (2) |
| 四国 | 0 (0) |
| 中部・東海 | 0 (0) |
| 海外 | 0 (0) |

エ 航空機利用 23校 (23校)
(内訳) 北海道方面 2校 (0校)
大阪方面 10校 (19校)
九州方面 4校 (2校)
沖縄方面 2校 (2校)
広島 1校 (0校)
兵庫 4校 (0校)
海外 0校 (0校)

オ 泊日数

1泊2日 0校 (0校)
2泊3日 1校 (5校)
3泊4日 75校 (69校)
4泊5日 2校 (4校)

カ 必要経費

生徒一人当たりの最高額 145,000円 (134,928円)
最低額 43,060円 (69,501円)
平均額 105,311円 (104,359円)

キ 引率責任者

校長 27校 (44校)
副校長 1校 (2校)
教頭 50校 (31校)
教諭 0校 (1校)

7 産業教育

(1) 県産業教育フェア

令和5年度は実施せず。

(2) 文部科学省主催の研修講座と内容

ア 令和5年度産業・情報技術等指導者養成研修

商業 7月31日(月)～8月4日(金)

千葉商科大学

水産 7月24日(月)～26日(金)

茨城県立海洋高等学校

家庭 8月21日(月)～23日(水)

全国高等学校長協会家庭部会事務局

情報 8月2日(水)～4日(金)

大阪公立大学

工業 8月22日(火)～24日(木)

金沢工業大学

農業 7月24日(月)～28日(金)

アクトシティ浜松研修交流センター

イ 令和5年度産業教育実習助手研修

実施せず

ウ 令和5年度学校農業・家庭クラブ連盟指導者養成講座

第64回全国高等学校家庭クラブ指導者養成講座

8月3日(木)～4日(金)

国立オリンピック記念青少年総合センター

令和5年度学校農業クラブ指導者養成講座

8月8日(火)～10日(木)

国立オリンピック記念青少年総合センター

8 学校訪問

(1) 目的

指導主事等が県立学校を訪問し、関係者とともに授業研究や教科の指導に関する研究協議を行うことにより、学習指導等の充実を図る。

(2) 訪問校

5年経験者研修、又は中堅教諭等資質向上研修の該当者の勤務する学校から数校を選定する。

(3) 訪問学校一覧

| | |
|------------|-------|
| 福島高等学校 | 理科 |
| 福島明成高等学校 | 農業 |
| 福島工業高等学校 | 工業 |
| 福島西高等学校 | 芸術 |
| 郡山北工業高等学校 | 工業 |
| 郡山高等学校 | 数学 |
| 須賀川創英館高等学校 | 地理歴史 |
| 須賀川桐陽高等学校 | 保健体育 |
| 光南高等学校 | 家庭 |
| 喜多方高等学校 | 商業 |
| 南会津高等学校 | 保健体育 |
| 磐城高等学校 | 公民 |
| いわき光洋高等学校 | 国語 |
| ふたば未来高等学校 | 農業 |
| 相馬総合高等学校 | 理科、芸術 |
| 相馬農業高等学校 | 外国語 |
| いわき翠の杜高等学校 | 学校保健 |

9 県立学校学校教育指導委員

| 教科名 | 氏名 | 職名 | 学校名 |
|-------|---------|------|-------------|
| 国語 | 宮内 忠 | 教諭 | 磐城桜が丘高等学校 |
| 地理歴史 | 渡邊 優輔 | 教諭 | 福島高等学校 |
| 公民 | ジェルバ 愛子 | 教諭 | 白河実業高等学校 |
| 数学 | 景山 健太 | 教諭 | 福島西高等学校 |
| 理科 | 高橋 里美 | 教諭 | 橘高等学校 |
| | 和田 真衣 | 教諭 | 福島東高等学校 |
| 保健体育 | 星 謙一 | 教諭 | 郡山商業高等学校 |
| | 武藤小夜子 | 教諭 | 川口高等学校 |
| 芸術 | 北原 志帆 | 教諭 | ふたば未来学園高等学校 |
| | 茂木 拓 | 教諭 | 相馬総合高等学校 |
| | 上田 彩 | 教諭 | 郡山商業高等学校 |
| 外国語 | 塩田 陸 | 教諭 | ふたば未来学園高等学校 |
| 家庭 | 青木 教子 | 教諭 | 郡山北工業高等学校 |
| 情報 | 鈴木 文武 | 教諭 | いわき総合高等学校 |
| 農業・水産 | 伊藤 正樹 | 教諭 | 修明高等学校 |
| | 藤原 忍 | 教諭 | 相馬農業高等学校 |
| 工業 | 半澤 幸祐 | 教諭 | 二本松実業高等学校 |
| | 鈴木 康雅 | 教諭 | 白河実業高等学校 |
| 商業 | 中里 充 | 教諭 | 南会津高等学校 |
| 定通 | 宮田 真弥 | 教諭 | 白河第二高等学校 |
| 学校保健 | 増子 栄子 | 養護教諭 | 相馬高等学校 |

(21名)

10 教科用図書

(1) 教科書採択事務説明会

令和5年度は実施せず。

11 教育研究団体

(1) 福島県高等学校長協会

組織

令和5年度福島県高等学校長協会役員名簿

| 役職名 | 氏名 |
|------|--------------|
| 会長 | 鈴木 芳人 (安積) |
| 副会長 | 丹野 純一 (福島) |
| 副会長 | 鈴木 義祐 (会津) |
| 副会長 | 柳 沼 英 樹 (磐城) |
| 副会長 | 吉 田 浩 美 (原町) |
| 監 査 | 味 原 正 美 (福南) |
| 監 査 | 森 下 陽一郎 (福西) |
| 事務局長 | 中 野 茂 (福東) |

支部

| 支部 | 支部長 | 副支部長 |
|-----|------------|------------|
| 県 北 | 丹野 純一 (福島) | 菊池 直之 (橘) |
| | | 郷家 俊哉 (視支) |
| 県 南 | 鈴木 芳人 (安積) | 黒川 佳子 (黎明) |
| | | 矢森 健一 (白河) |
| 会 津 | 鈴木 義祐 (会津) | 尾形 幸男 (葵) |
| | | 近東 昇 (喜桐) |
| いわき | 柳沼 英樹 (磐城) | 渡邊 学 (桜丘) |
| | | 菅野美恵子 (い支) |
| 相 双 | 吉田 浩美 (原町) | 郡司 完 (ふ未) |
| | | 佐藤 秀美 (相馬) |

理事会

| | 氏名 | |
|-----|------------|------------|
| 理事会 | 鈴木 芳人 (安積) | 菊池 直之 (橘) |
| | 丹野 純一 (福島) | 酒井 祐治 (福商) |
| | 鈴木 義祐 (会津) | 安田 修久 (明成) |
| | 柳沼 英樹 (磐城) | 山内 義美 (福工) |
| | 吉田 浩美 (原町) | 田母神賢一 (萌世) |
| | 中野 茂 (福東) | 郷家 俊哉 (視支) |
| | 渡邊 亮 (田村) | |

専門委員会 (◎印 委員長 ○印 副委員長)

| 専門委員会 | 氏名 | |
|---------------------|-------------|-------------|
| 管 理
運 営
委 員 会 | ◎高橋 喜智 (南会) | ○中村 充幸 (福北) |
| | 丹野 純一 (福島) | 中野 茂 (福東) |
| | 高野 敦史 (郡山) | 佐々木理夫 (小野) |
| | 近東 昇 (喜桐) | 小林 寿宣 (い総) |
| | 原田 大輔 (四倉) | 中村 康伸 (相総) |
| | 齋藤 成子 (郡支) | |
| 教 育
課 題
委 員 会 | ◎軽部 英敏 (光南) | ○伊藤 勝宏 (安達) |
| | 渋川 卓也 (須創) | 増子 文隆 (川口) |
| | 柳沼 英樹 (磐城) | 酒井 正隆 (磐農) |
| | 荒川 俊一 (勿工) | 伊藤 靖隆 (只見) |
| | 西村 則昌 (聴支) | 本田 知史 (だ支) |
| | 杉本 雅昭 (た支) | 赤坂 剛 (富支) |

| 専門委員会 | 氏 名 | |
|-----------|-------------|-------------|
| 生徒指導委員会 | ◎佐藤 文男 (会農) | ○鈴木 憲治 (修明) |
| | 佐藤 正道 (松実) | 鈴木 義祐 (会津) |
| | 野口 智行 (湖南) | 長南 国彦 (平工) |
| | 志賀 勲 (相農) | 渡邊 武彦 (い翠) |
| | 西牧 辰典 (大支) | 鈴木 龍也 (あ支) |
| | 小川 令子 (西支) | 猪俣 康彦 (猪支) |
| 教育課程委員会 | ◎伊東 光司 (会西) | ○金成 智子 (あ開) |
| | 味原 正美 (福南) | 半谷 佳之 (川俣) |
| | 猪股 一教 (白旭) | 滝田 勝彦 (猪代) |
| | 佐藤 秀雄 (好間) | 吉田 浩美 (原町) |
| | 田母神賢一 (萌世) | 渡部 孝男 (平支) |
| 高校入試検討委員会 | ◎郡司 完 (ふ未) | ○亀田 光弘 (船引) |
| | 安田 修久 (明成) | 高橋 文彦 (伊達) |
| | 永山 広克 (白実) | 津田 直子 (石川) |
| | 渡邊 亮 (田村) | 猪俣 豊 (喜方) |
| | 渡邊 雅彦 (西会) | 阿部 学 (い湯) |
| 大学入試対策委員会 | ◎齋藤 靖 (郡東) | ○森下陽一郎 (福西) |
| | 菊池 直之 (橘) | 鈴木 芳人 (安積) |
| | 黒川 佳子 (黎明) | 櫻井 克彦 (須桐) |
| | 矢森 健一 (白河) | 尾形 幸男 (葵) |
| | 遠藤 利晴 (学鳳) | 渡邊 学 (桜丘) |
| | 齋藤 文子 (い光) | 佐藤 秀美 (相馬) |
| 就職指導対策委員会 | ◎吉井 秀樹 (郡商) | ○鈴木 稔 (郡北) |
| | 酒井 祐治 (福商) | 山内 義美 (福工) |
| | 小針 幸雄 (清陵) | 高橋 豊治 (岩農) |
| | 松本 善法 (会工) | 吉成 広昭 (若商) |
| | 渡邊 浩志 (平商) | 齋藤 裕昭 (小海) |
| | 佐竹 建城 (小産) | 佐藤 清悦 (須支) |
| 人権教育委員会 | ◎和田 直也 (本宮) | ○田中久美子 (石支) |
| | 郷家 峻哉 (視支) | 加藤 香洋 (会支) |
| | 菅野美恵子 (い支) | 植田 貴子 (相支) |

| 部会長 | |
|--------|---------------|
| 部 会 | 氏 名 |
| 普通部会 | 菊池 直之 (橘) |
| 商業部会 | 酒井 祐治 (福島商業) |
| 農業部会 | 安田 修久 (福島明成) |
| 工業部会 | 山内 義美 (福島工業) |
| 水産部会 | 齋藤 裕昭 (小名浜海星) |
| 家庭部会 | 齋藤 文子 (いわき光洋) |
| 定通部会 | 田母神賢一 (郡山萌世) |
| 特別支援部会 | 郷家 峻哉 (視覚支援) |
| 理数部会 | 矢森 健一 (白河) |
| 英語国際部会 | 味原 正美 (福島南) |
| 体育部会 | 渡邊 亮 (田村) |
| 総合学科部会 | 中村 充幸 (福島北) |

| 全国校長会 | |
|-------|---------------|
| 部 会 | 氏 名 |
| 理 事 | 鈴木 芳人 (安積) |
| 理 事 | 鈴木 義祐 (会津) |
| 理 事 | 柳沼 英樹 (磐城) |
| 管理運営 | 高橋 喜智 (南会津) |
| 教育課題 | 軽部 英敏 (光南) |
| 生徒指導 | 佐藤 文男 (会津農林) |
| 教育課程 | 伊東 光司 (会津西陵) |
| 大学入試 | 齋藤 靖 (郡山東) |
| 就職対策 | 吉井 秀樹 (郡山北工業) |
| 人権教育 | 和田 直也 (本宮) |

(2) 福島県高等学校教育研究会

ア 財政及び組織の状況

(7) 本部

令和5年度福島県高等学校教育研究会

| 役職名 | 氏 名 | 所属校・職名 |
|-----|-------|------------|
| 会 長 | 味原 正美 | 福島南高等学校長 |
| 副会長 | 吉田 浩美 | 原町高等学校長 |
| 副会長 | 猪俣 豊 | 喜多方高等学校長 |
| 監 査 | 安田 修久 | 福島明成高等学校長 |
| 監 査 | 酒井 祐治 | 福島商業高等学校長 |
| 委 員 | 渡邊 学 | 磐城桜が丘高等学校長 |
| 委 員 | 軽部 英敏 | 光南高等学校長 |
| 委 員 | 鈴木 芳人 | 安積高等学校長 |
| 委 員 | 山内 義美 | 福島工業高等学校長 |
| 委 員 | 酒井 祐治 | 福島商業高等学校長 |
| 委 員 | 櫻井 克彦 | 須賀川桐陽高等学校長 |
| 委 員 | 中村 康伸 | 相馬総合高等学校長 |
| 委 員 | 和田 直也 | 本宮高等学校長 |
| 幹 事 | 齋藤 慶 | 福島南高等学校教頭 |

(1) 部会

| 部会名 | 部会長氏名 | 所属校・職名 | 会員数 |
|------|-------|------------|-----|
| 養護教諭 | 渡邊 学 | 磐城桜が丘高等学校長 | 144 |
| 保健体育 | 軽部 英敏 | 光南高等学校長 | 442 |
| 理 科 | 猪俣 豊 | 喜多方高等学校長 | 393 |
| 音 楽 | 鈴木 芳人 | 安積高等学校長 | 68 |
| 農 業 | 安田 修久 | 福島明成高等学校長 | 224 |
| 工 業 | 山内 義美 | 福島工業高等学校長 | 365 |
| 商 業 | 酒井 祐治 | 福島商業高等学校長 | 282 |
| 定 通 | 山内 義美 | 福島工業高等学校長 | 148 |
| 英 語 | 櫻井 克彦 | 須賀川桐陽高等学校長 | 400 |
| 数 学 | 吉田 浩美 | 原町高等学校長 | 406 |
| 家 庭 | 中村 康伸 | 相馬総合高等学校長 | 117 |
| 美術工芸 | 和田 直也 | 本宮高等学校長 | 44 |

○令和5年度予算 132,976 円

第4節 文化活動の振興

高校生の芸術文化活動の充実向上を図るため、福島県高等学校文化連盟に対する助成を行った。
けんしん郡山文化センターにて、福島県高等学校総合文化祭活動優秀校公演を開催した。

(1) 芸術文化活動発表機会の充実

ア 福島県高等学校文化連盟への助成

福島県高等学校総合文化祭の開催に対する補助を行った。(補助対象事業費計：8,482千円、補助金額計：1,000千円)

(ア) 令和5年度福島県高等学校文化連盟

役員

| 役職名 | 氏名 | 職 | 所属校 |
|----------|-------|----|------------|
| 会長 | 黒川 佳子 | 校長 | 安積黎明高等学校 |
| 副会長(私立) | 森 涼 | 校長 | 学法石川高等学校 |
| 副会長(県北) | 高橋 文彦 | 校長 | 伊達高等学校 |
| 副会長(県南) | 吉井 秀樹 | 校長 | 郡山商業高等学校 |
| 副会長(会津) | 遠藤 利晴 | 校長 | 会津学鳳高等学校 |
| 副会長(いわき) | 渡邊 浩志 | 校長 | 平商業高等学校 |
| 副会長(相双) | 佐竹 建城 | 校長 | 小高産業技術高等学校 |
| 理事長 | 三條 敦 | 教諭 | 安積黎明高等学校 |
| 事務局長 | 藤井 克憲 | 教諭 | 安積黎明高等学校 |

| 役職名 | 氏名 | 職 | 所属校 |
|-----|-------|------|----------|
| 監事 | 和田 直也 | 校長 | 本宮高等学校 |
| 監事 | 飯豊 利子 | 教諭 | 郡山高等学校 |
| 幹事 | 鈴木 敦 | 教諭 | 福島商業高等学校 |
| 幹事 | 原 義治 | 教諭 | 会津学鳳高等学校 |
| 幹事 | 櫛田みゆき | 教頭 | 安積黎明高等学校 |
| 幹事 | 難波 幸生 | 教諭 | 安積黎明高等学校 |
| 幹事 | 清野 志保 | 教諭 | 安積黎明高等学校 |
| 幹事 | 池田 知美 | 教諭 | 安積黎明高等学校 |
| 幹事 | 馬場 浩身 | 実習教諭 | 安積黎明高等学校 |
| 顧問 | 箱崎 兼一 | 課長 | 高校教育課 |

専門部会長・専門部委員長

| 専門部 | 部会長 | 職 | 所属校 | 部委員長 | 職 | 所属校 |
|-------------|--------|----|---------|-------|----|--------------|
| 演劇 | 柳沼 英樹 | 校長 | 磐城 | 小林 俊一 | 教諭 | 磐城 |
| 高音連 | 星 弓彦 | 教頭 | ふたば未来学園 | 小山田 浩 | 教諭 | いわき湯本 |
| 合唱 | 黒川 佳子 | 校長 | 安積黎明 | 星 英一 | 教諭 | 安積黎明 |
| 吹奏楽 | 中村 康伸 | 校長 | 相馬総合 | 今野 貴文 | 教諭 | 相馬総合 |
| 器楽管弦楽 | 吉井 秀樹 | 校長 | 郡山商業 | 鈴木 敦 | 教諭 | 郡山商業 |
| 日本音楽 | 吉田 浩美 | 校長 | 原町 | 萩原 睦子 | 教諭 | 原町 |
| 吟詠剣詩舞 | 千葉 義夫 | 校長 | 昌平 | 大橋 未緒 | 教頭 | 昌平 |
| 郷土芸能 | 志賀 勲 | 校長 | 相馬農業 | 佐藤 規慶 | 教諭 | 磐城農業 |
| マーチングB・バトンT | 軽部 英敏 | 校長 | 光南 | 横田 日夏 | 教諭 | 光南 |
| 美術・工芸 | 和田 直也 | 校長 | 本宮 | 眞柴 毅 | 教諭 | 福島東 |
| 書道 | 田母神 賢一 | 校長 | 郡山萌世 | 小野 俊彦 | 教諭 | 郡山萌世 |
| 写真 | 中村 充幸 | 校長 | 福島北 | 根津 邦子 | 教諭 | 福島北 |
| 放送 | 吉田 浩美 | 校長 | 原町 | 佐藤 悠介 | 教諭 | 原町 |
| 囲碁 | 菊池 直之 | 校長 | 橘 | 佐原 輝明 | 教諭 | ふくしま新世(保原校舎) |
| 将棋 | 丹野 純一 | 校長 | 福島 | 渡辺 洋生 | 教諭 | 福島 |
| 弁論 | 鈴木 義祐 | 校長 | 会津 | 猪俣小百合 | 教諭 | 会津 |
| 小倉百人一首かるた | 黒川 佳子 | 校長 | 安積黎明 | 益永 涼子 | 教諭 | 安積黎明 |
| 新聞 | 鈴木 芳人 | 校長 | 安積 | 石山 智恵 | 教諭 | 安積 |
| 文芸 | 高野 敦史 | 校長 | 郡山 | 近内富美子 | 教諭 | 郡山東 |
| 自然科学 | 猪俣 豊 | 校長 | 喜多方 | 今野 直樹 | 教諭 | 相馬 |
| 農業 | 佐藤 文男 | 校長 | 会津農林 | 吉田 勇人 | 教諭 | 会津農業 |
| 工業 | 鈴木 稔 | 校長 | 郡山北工業 | 永山小太郎 | 教諭 | 郡山北工業 |
| 商業 | 酒井 祐治 | 校長 | 福島商業 | 渡邊 貴 | 教諭 | 福島商業 |

| 専 門 部 | 部会長 | 職 | 所属校 | 部委員長 | 職 | 所属校 |
|--------|-------|-----|--------|-------|-----|--------|
| 家 庭 | 中山 充幸 | 校 長 | 福島北 | 安孫子朋子 | 教 諭 | 福島北 |
| 定 通 | 渡邊 武彦 | 校 長 | いわき翠の杜 | 川邊奈津子 | 教 諭 | いわき翠の杜 |
| 特別支援学校 | 加藤 香洋 | 校 長 | 会津支援 | 菅野 友代 | 教 諭 | 会津支援 |
| J R C | 遠藤 利晴 | 校 長 | 会津学鳳 | 鈴木 俊子 | 教 諭 | 会津学鳳 |

イ 第42回福島県高等学校総合文化祭

県内高校生の文化活動の成果発表と相互の交流を目的として、全県内において、令和5年5月から令和5年12月まで、専門部の行事を開催した。

ウ 第47回全国高等学校総合文化祭東京大会への参加

本県からは、17部門に173名の生徒が参加した。

[参加部門]

演劇、合唱、吹奏楽、器楽・管弦楽、日本音楽、吟詠剣詩舞、美術・工芸、書道、写真、放送、囲碁、将棋、小倉百人一首かるた、新聞、文芸、自然科学

エ 令和5年度福島県高文連専門部全国大会入賞状況

(ア) 団体

| 専 門 部 | 大 会 名 | 成 績 | 学 校 名 |
|-----------------------|--|--|-------|
| 郷土芸能 | 太鼓祭 2023 日本一決定戦 | 文部科学大臣賞 | 帝京安積 |
| マーチングバンド・
バトントワリング | 全国高等学校ダンスドリル選手大会 2023 | PROP 部門 1 位、DRILL POM 部門 Small 編成 2 位、
GRANDACHIVEMENTAWARD 2 位 | 郡山商業 |
| | 全国高等学校ダンスドリル選手大会 2023 | KICK 部門 1 位、MILITARY 部門 1 位 | 郡 山 |
| 吹奏楽 | 第 46 回全日本アンサンブルコンテスト | 金賞 (金管八重奏) | いわき湯本 |
| | 第 71 回全日本吹奏楽コンクール | 銅賞 | |
| 合唱 | 第 76 回全日本合唱コンクール全国大会 | 金賞 (B グループ) | 郡 山 |
| | 第 90 回 NHK 全国学校音楽コンクール | 銀賞 | 会 津 |
| | 第 76 回全日本合唱コンクール全国大会 | 金賞・香川県知事賞 (B グループ) | |
| 新聞 | 第 90 回 NHK 全国学校音楽コンクール | 銅賞 | 安積黎明 |
| | 第 76 回全日本合唱コンクール全国大会 | 銅賞 (A グループ) | |
| | 第 47 回全国高等学校総合文化祭
(第 27 回全国高校新聞年間紙面審査賞) | 優秀賞 | |
| 工業 | 第 31 回全国高等学校ロボット競技大会 | 技術奨励賞 | 清陵情報 |
| 文芸 | 第 38 回全国高等学校文芸コンクール | 文芸部誌部門 優秀賞 | 磐 城 |

(イ) 個人

| 専 門 部 | 大 会 名 | 成 績 | 学 校 名 | 氏 名 |
|---------------|---------------------------------------|------------------|--------------|-------|
| 将棋 | 第 47 回全国高等学校総合文化祭 | 男子個人戦 優勝 | 福島成蹊 | 小島 佑斗 |
| | 第 59 回全国高等学校将棋選手大会 | | | |
| 家庭 | 第 71 回全国高等学校家庭クラブ連盟研究発表大会 | 宮城県教育委員会賞 | 会津農林
耶麻校舎 | 飯塚 美羽 |
| 小倉百人一首
かるた | 第 47 回全国高等学校総合文化祭鹿児島大会 | 読手コンクールの部
優秀賞 | 安積黎明 | 伊東 彩音 |
| 商業 | 第 35 回全国高等学校情報処理競技大会 | 個人の部 3 位 | 福島商業 | 中村 粹吏 |
| 文芸 | 第 39 回全国高等学校文芸コンクール | 小説部門 優秀賞 | 橘 | 田村 美結 |
| | 第 39 回全国高等学校文芸コンクール | 短歌部門 優秀賞 | 磐城 | 関根 杏華 |
| 農業 | 第 74 回日本学校農業クラブ連盟 全国大会令和 5 年
度熊本大会 | 意見発表分野Ⅱ類
優秀賞 | 相馬農業 | 佐々木海渡 |

| | | | | |
|-----------------------|---|---------------------|-------|-------|
| マーチングバンド・
バトントワリング | Dance Drill Winter Cup 第15回全国高等学校ダンスドリル冬季大会 | Ms. SOLO 1年生 2位 | 郡山商業 | 村上 花梨 |
| 特別支援学校 | 令和5年度第30回全国特別支援学校文化祭 | 文部科学大臣賞 | 平支援 | 中川 愛理 |
| | 令和5年度第30回全国特別支援学校文化祭 | 全国特別支援学校知的障害教育校長会長賞 | 大笹生支援 | 吾妻 蛭 |
| 定通 | 第71回全国高等学校定時制通信制生徒生活体験大会 | NHK会長賞 | 会津第二 | 塚原 大翔 |

オ 令和5年度福島県高等学校文化連盟表彰

(ア) 優秀団体

| No. | 団体名 | 所属校名 | 専門部 | 全国大会での成績 |
|-----|--------------------|-------|-----------------------|---|
| 1 | チアリーディング部 | 郡山商業 | マーチングバンド・
バトントワリング | 全国高等学校ダンスドリル選手権大会 2023
PROP 部門 1位、DRILL POM 部門 Small 編成 2位、GRANDACHIVEMENTAWARD2 位 |
| 2 | チアダンス部 | 郡山 | マーチングバンド・
バトントワリング | 全国高等学校ダンスドリル選手権大会 2023
KICK 部門 1位、MILITARY 部門 1位 |
| 3 | 報道委員会 | 郡山北工業 | 新聞 | 第47回全国高等学校総合文化祭
(第27回全国高校新聞年間紙面審査賞) 優秀賞 |
| 4 | 合唱部 | 郡山 | 合唱 | 第76回全日本合唱コンクール全国大会 金賞 (Bグループ)
第90回NHK全国学校音楽コンクール 銀賞 |
| 5 | 合唱部 | 会津 | 合唱 | 第76回全日本合唱コンクール全国大会 金賞 (Bグループ) 香川県知事賞
第90回NHK全国学校音楽コンクール 銅賞 |
| 6 | 吹奏楽部 | いわき湯本 | 吹奏楽 | 第46回全日本アンサンブルコンテスト 金賞 (金管八重奏) |
| 7 | 情報処理部 | 福島商業 | 商業 | 第35回全国高等学校情報処理競技大会 準優勝 |
| 8 | 和太鼓部 | 帝京安積 | 郷土芸能 | 太鼓祭2023 日本一決定戦 文部科学大臣賞 |
| 9 | 文学部 | 磐城 | 文芸 | 第38回全国高等学校文芸コンクール 文芸部誌部門 優秀賞 |
| 10 | フラ・タヒチアン
ダンス同好会 | あさか開成 | | 令和5年度フラダンス甲子園 最優秀賞 文部科学大臣賞 |

(イ) 優秀個人

| No. | 氏名 | 所属校名 | 専門部 | 全国大会での成績 |
|-----|-------|--------------|-----------------------|--|
| 1 | 小島 佑斗 | 福島成蹊 | 将棋 | 第47回全国高等学校総合文化祭 第59回全国高等学校将棋選手大会
男子個人戦優勝 |
| 2 | 伊東 彩音 | 安積黎明 | 小倉百人一首
かるた | 第47回全国高等学校総合文化祭
読手コンクールの部 最優秀賞 |
| 3 | 飯塚 美羽 | 会津農林
耶麻校舎 | 家庭 | 第71回全国高等学校家庭クラブ連盟研究発表大会
宮城県教育委員会賞 |
| 4 | 中村 粹吏 | 福島商業 | 商業 | 第35回全国高等学校情報処理競技大会 個人の部 3位 |
| 5 | 田村 美結 | 橘 | 文芸 | 第39回全国高等学校文芸コンクール 小説部門 優秀賞 |
| 6 | 関根 杏華 | 磐城 | 文芸 | 第39回全国高等学校文芸コンクール 小説部門 優秀賞 |
| 7 | 佐々木海渡 | 相馬農業 | 農業 | 第74回日本学校農業クラブ連盟 全国大会令和5年度熊本大会
意見発表分野Ⅱ類 優秀賞 |
| 8 | 村上 花梨 | 郡山商業 | マーチングバンド・
バトントワリング | Dance Drill Winter Cup 第15回全国高等学校ダンスドリル冬季大会
Ms. SOLO 1年生 2位 |
| 9 | 中川 愛理 | 平支援 | 特別支援学校 | 令和5年度第30回全国特別支援学校文化祭 文部科学大臣賞 |
| 10 | 吾妻 蛭 | 大笹生支援 | 特別支援学校 | 令和5年度第30回全国特別支援学校文化祭 全国特別支援学校知的障害教育校長会長賞 |
| 11 | 塚原 大翔 | 会津第二 | 定通 | 第71回全国高等学校定時制通信制生徒生活体験大会 NHK 会長賞 |

(ウ) 優秀指導者

| No. | 氏名 | 所属校名 | 専門部 | 全国大会での成績 |
|-----|--------|--------------|-----------|--|
| 1 | 坂本 雄一 | 帝京安積 | 郷土芸能 | 第 11 回全国高校生太鼓甲子園において最優秀賞（第 1 位相当）太鼓祭 in 埼玉、第 16 回東日本・北日本大会において一般の部 第 1 位、太鼓祭 2022 第 14 回日本一決定戦 特審賞、太鼓祭第 3 回全国 7 人制和太鼓選手権大会 女子の部において第 1 位 |
| 2 | 小山田 浩 | いわき湯本 | 福島県高文連事務局 | 【いわき湯本高校】
令和 4 年度 第 46 回全日本アンサンブルコンテスト（金管八重奏）金賞
【湯本高校】
第 65 回全日本吹奏楽コンクール銅賞、第 66 回全日本吹奏楽コンクール銅賞
【原町高校】
第 53 回全日本吹奏楽コンクール東北大会金賞
第 38 回全日本アンサンブルコンテスト東北大会クラリネット八重奏金賞
【磐城桜が丘高校】
第 57 回全日本吹奏楽コンクール東北大会金賞
第 59 回全日本吹奏楽コンクール東北大会金賞 |
| 3 | 木野 美智子 | 会津農林
耶麻校舎 | 家庭 | 令和 3 年度東北ブロック家庭クラブ連盟研究発表大会ホームプロジェクトの部において最優秀賞を受賞した生徒が、令和 4 年度に行われた全国大会において第 1 位に該当する文部科学大臣賞を受賞した。きめ細やかな指導とその実績は優秀指導者として相応しいことから、この度家庭専門部として推薦いたします。 |